

美濃加茂市民ミュージアム企画展

# みのかも 地域文化資源のある 暮らし

「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が始まる!



## ごあいさつ

近年、私たちの身の回りでは、人口減少や少子高齢化、価値観の多様化・分断等が「社会の課題」として意識されるようになりました。これらはもともと、身边で起きた小さな出来事が、大きく積み重なった結果ではないかと考えられます。

2024(令和6)年、美濃加茂市は「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」を作成し、文化庁長官から認定されました。この計画では、「想いがつながり、深まりつづけるまち」を大きな願いとして、謳(うた)うことになりました。その出発点になるものは、法律で「文化財」とされるものですが、いわゆる国・県・市から指定された「文化財」だけではなく、自然と共にこの土地で生まれ、育まれてきた一つひとつである、美濃加茂市の暮らしの中で大切にされてきた、私たちの営みを表す証(あかし)となるものです。それらを「みのかも地域文化資源」と位置づけました。

美濃加茂市民ミュージアムでは、「社会の課題」という大きな言葉に埋もれたり、見失ったりすることのないよう、「毎日の積み重ねがある」、「つながりがある」、「成り立ちがある」私たちの暮らし、に立ち戻ることを大切にしたいということ、そして、価値のあるものは身近にあると、常に考えています。

本展では、認定された計画を案内の手引きとして、本物の「みのかも地域文化資源」と出会い、関わり合う楽しみ方を探ってみたいと考えます。地道ながらもそのような活動を積み重ねていくことが、私たちの暮らしや「まち」をどのように豊かで深まりのあるものにできるのか、見つめ直すための機会になることを願っています。

2025年4月  
美濃加茂市民ミュージアム

## 謝辞

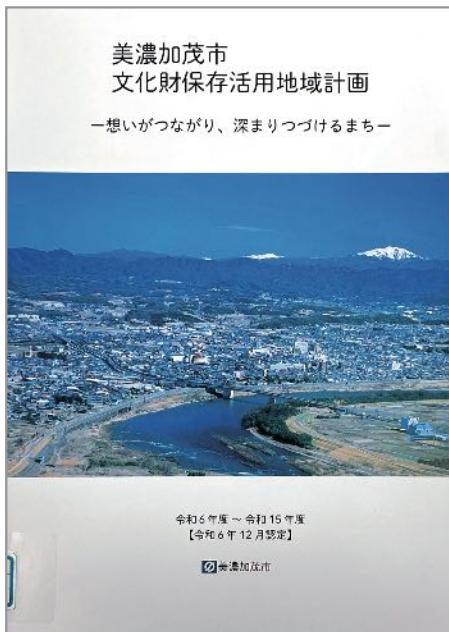
展覧会の開催にあたりまして、多くの方々にご協力、ご指導を賜りました。  
ここにご芳名を記し、心よりお礼を申し上げます。

秋山晶則、安藤志郎、奥田浩之、佐光重廣、故 須賀瑛文、須山知香、永田幸枝、のりづきとしお、  
林 真司、林 直樹、堀畑雅人、村瀬正成、渡邊明日香

あしたとあしあと、伊深まちづくり協議会、えほんのわ、AHA![Archive for Human Activities/  
人類の営みのためのアーカイブ]、岐阜県立関高等学校地域研究部、古井神社当元・当脇、  
津田左右吉博士顕彰会、坪内逍遙博士顕彰会、美濃加茂伝承料理の会、美濃加茂自然史研究会

(50音順、敬称略)

# I 美濃加茂市文化財保存活用地域計画



『美濃加茂市文化財保存活用地域計画  
令和6年度～令和15年度』  
美濃加茂市 2025(令和7)年

2024(令和6)年12月20日、美濃加茂市は「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」を作成し、文化庁長官から認定されました。114頁に及ぶこの計画には、歴史文化で魅力のある地域を目指すための考え方や取り組み等が記されています。

目次	
<b>序章 本計画の位置づけと定義</b>	1
1 計画作成の背景と目的	1
2 地域計画の位置づけ	2
3 計画期間	10
4 本計画における文化財の定義	11
5 計画作成の体制と経緯	16
<b>第1章 美濃加茂市の概要</b>	18
1 自然的・地理的環境	18
2 社会的状況	23
3 歴史的背景	30
<b>第2章 「みのかも地域文化資源」の概要</b>	35
1 文化財保護法に基づく「指定等文化財」の概要と特徴	35
2 「未指定文化財」の概要と特徴	42
3 関連する制度	48
4 地区ごとの「みのかも地域文化資源」の特徴	52
<b>第3章 美濃加茂市の歴史文化の特性</b>	55
1 山間と平野が隣接する、里山の暮らし	56
2 木曾川・飛騨川の中流としての特徴	57
3 南北、東西をつなぐ、交通の要所	58
<b>第4章 「みのかも地域文化資源」の保存・活用に関する現状</b>	61
1 「みのかも地域文化資源」の調査実績	61
2 「みのかも地域文化資源」の保存と活用に関する取組み	65
3 市民の「みのかも地域文化資源」に対する意識の現況	66
<b>第5章 「市民ミュージアム」を中心とした「みのかも地域文化資源」の保存・活用の取組み</b>	68
1 市民ミュージアムとは	68
2 市民ミュージアムでの取組	68
3 市民ミュージアム来場者へのアンケート	71
<b>第6章 「みのかも地域文化資源」の保存・活用に関する将来像</b>	74
1 「みのかも地域文化資源」の保存・活用に関する将来像	74
2 将来像を達成するための方向性	75
<b>第7章 「みのかも地域文化資源」の保存・活用に関する課題</b>	77
1 「みのかも地域文化資源」を明らかにするための課題	77
2 「みのかも地域文化資源」を守るための課題	77
3 「みのかも地域文化資源」を共有するための課題	78
4 「みのかも地域文化資源」を活かすための課題	79
5 「みのかも地域文化資源」をみんなで支えるための課題	79
6 「みのかも地域文化資源」をつなぐための課題	80
<b>第8章 「みのかも地域文化資源」の保存・活用に関する方針・措置</b>	81
1 「みのかも地域文化資源」を明らかにするための方針・措置	81
2 「みのかも地域文化資源」を守るための方針・措置	84
3 「みのかも地域文化資源」を共有するための方針・措置	89
4 「みのかも地域文化資源」を活かすための方針・措置	91
5 「みのかも地域文化資源」をみんなで支えるための方針・措置	93
6 「みのかも地域文化資源」をつなぐための方針・措置	95
<b>第9章 「みのかも地域文化資源」の一体的・総合的な保存・活用</b>	96
1 関連文化財群の捉え方	96
2 関連文化財群	97
<b>第10章 「みのかも地域文化資源」の保存・活用の推進体制</b>	109
1 保存・活用の推進体制	109
2 防災・防犯体制	113
3 計画の進捗管理と自己評価	114

## コラム目次

- 1 美濃加茂市報連載記事「バス停からの小さな旅」展(令和4(2022)年) ..... 14
- 2 「MINOKAMO STORY わたしの好きなみのかも」展(令和5(2023)年) ..... 14
- 3 美濃加茂市の先人 ..... 48
- 4 「ヨソモノ」から見た、みのかもの姿 ..... 59
- 5 五感で捉える、みのかもの姿 ..... 60
- 6 市民が捉える歴史文化に関するくらし、行事、食 ..... 67
- 7 外から見た市民ミュージアムの博物館活動 ..... 73
- 8 「道道ごみち 遊歩道おさんぽマップ」 ..... 76
- 9 「坪内逍遙からの広がり」(交流) ..... 76

『美濃加茂市文化財保存活用地域計画 令和6年度～令和15年度』目次  
美濃加茂市 2025(令和7)年

# 美濃加茂市文化財保存活用地域計画【概要版】

## ■ 美濃加茂市の概要

【計画期間】令和6年度～令和15年度（10年間）

【面積】74.81 Km<sup>2</sup>

【人口】約5.8万人

【100年フード及び食文化ミュージアム】

「大歳のごつつお」・みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム

美濃加茂市は、北部が山地、中部が丘陵地、南部が盆地となっており、北は長良川水系、南は木曽川水系に属する。



## ■ 指定等文化財件数一覧（令和6年12月現在）

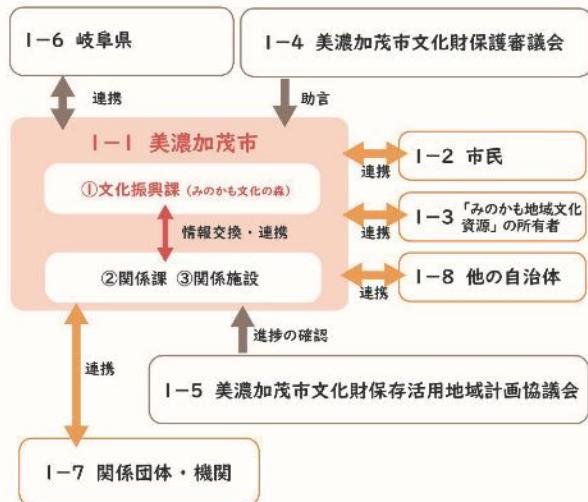
種別		国指定・選定	県指定	市指定	国登録	計
有形文化財	建造物	1	0	6	2	9
	美術	0	2	3	0	5
	工芸品	0	3	6	0	9
	工芸品	0	1	4	0	5
	書跡・典籍	0	1	4	0	5
	古文書	0	0	0	0	0
	考古資料	0	0	1	0	1
	歴史資料	0	0	2	0	2
	無形文化財	0	0	0	0	0
	民俗文化財	0	0	0	0	0
記念物	有形の民俗文化財	0	0	0	0	0
	無形の民俗文化財	0	0	2	0	2
	遺跡	0	0	4	0	4
文化的景観	名勝地	0	0	1	0	1
	動物・植物・地質鉱物	3	2	5	0	11
伝統的建造物群	0	—	—	—	—	0
	合計	4	9	38	2	53

みのかも地域文化資源の総数

指定等文化財は、53件

未指定文化財は、20,187件把握

## ■ 推進体制



## ■ 歴史文化の特性

美濃加茂市の歴史文化は、市域の北部、西部を流れる長良川水系の川浦川や蜂屋川、南部を流れる木曽川水系の飛騨川と木曽川からの恵みと、平野を囲む山々の恵みにより、生まれ、息づいてきた、「山の里」と「川のまち」の歴史文化です。

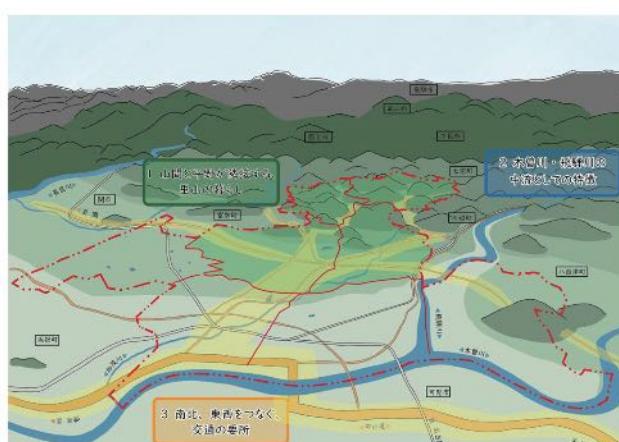
やまあい

### 1 山間と平野が隣接する、里山の暮らし

美濃加茂市の北部、西部には里山が広がり、特有の植物の生息・生育環境となっています。かねてより人々は、身近な里山から日々の食料、燃料などを得て暮らしてきました。その暮らしは、四季と共にあり、自然に対して調和のとれたもの（持続可能な社会）となりました。

### 2 木曽川・飛騨川の中流としての特徴

美濃加茂市が木曽川の中流域で、木曽川と飛騨川の合流点に位置することは、歴史文化の大きな特徴をもつことになりました。木材をはじめとする大量の物資を輸送する、上流と下流をつなぐ中継地として、人々の生活を支えてきました。さらに、川の流れに変化がある中流の環境は、観光資源や川を活かしたアクティビティを楽しめる空間になりました。



### 3 南北、東西をつなぐ、交通の要所

美濃加茂市は、美濃地方の中央部にあたり、木曽川の流れが変化する中流域に位置しています。中山道の宿場町や水運の中継地として整備され、さまざまな街道が設けられてきたことで、南北、東西、上流や下流をつなぐ結節点となり、現在でも、交通の要所となっています。

# 未来像 『想いがつながり、深まりつづけるまち』



「美濃加茂市文化財保存活用地域計画【概要版】」より抜粋

# 美濃加茂市の4つの関連文化財群

美濃加茂市では、多様な「みのかも地域文化資源」を「まとまり」をもって扱います。地域で大切にされてきた未指定の文化財についても構成要素としての価値付けが可能となり、また、相互に結びついた文化財の多面的な価値・魅力を明らかにすることができます。美濃加茂市の歴史文化の特性のうち、2つの歴史文化の特性を基に、計4つの関連文化財群を設定し、「みのかも地域文化資源」のつながりを活かした保存・活用の取組みを行います。

## 歴史文化の特性：山間と平野が隣接する、里山の暮らし

### 関連文化財群1 山の里での暮らし

「山の里」として、市域北部は、山からの恵みを大切にしながら自然と共に存してきました。その暮らしを象徴する「みのかも地域文化資源」をつなげ、ストーリー「山の里での暮らし」とします。

**方針** 学術的な調査を進めるとともに、地域と連携して住民による取組みを推進する。また安全性の確保を図る。

- 措置**
- 「山の里での暮らし」にまつわる「みのかも地域文化資源」の詳細調査
  - 伊深地区まちづくり協議会の活動の支援
  - 「みのかも地域文化資源」の公開活用のための環境整備



[旧伊深村役場庁舎]



[牛牧の桜並木]

### 関連文化財群2 山の里での祈りと伝説

自然と共に生き、自然への感謝や畏敬の念など、さまざまな想いが巡らされたことを象徴する「みのかも地域文化資源」をつなげ、ストーリー「山の里での祈りと伝説」とします。

**方針** 寺社や言い伝えの関連性を明らかにする調査を行う。また伊深地区が祈りの里であることを伝える取組みを行う。

- 措置**
- 「山の里での祈りと伝説」にまつわる「みのかも地域文化資源」の詳細調査
  - 「山の里での祈りと伝説」の教育での活用



[関山無相大師に関する伝説や民話 (絵本『えげんさん』)]



[正眼寺]

## 歴史文化の特性：木曽川・飛騨川の中流としての特徴

### 関連文化財群3 川のまちの古い建物

川を使った流通の中継地点として、江戸と京都を結ぶ中山道の宿場として、さらに、飛騨街道をはじめとする県内各地や県外との結節点として栄えてきた太田のまちの雰囲気を現在も感じができる、古い建物群をつなげ、ストーリー「川のまちの古い建物」とします。

**方針** 建造物の形態とまちの営みを明らかにする調査を進める。所有者との連携を図るとともに、ガイドの育成を行う。

- 措置**
- 「川のまちの古い建物」の詳細調査
  - 「川のまちの古い建物」にまつわる人物・家に関する調査「みのかも地域文化資源」の公開活用のための環境整備 等



[旧太田宿本陣門 (市指定)]



[吉田家住宅主屋]

### 関連文化財群4 川のまちの文学碑

美濃加茂市内の中でも特に、中山道太田宿周辺では、多くの文化人が生まれ、集まり、創作活動の拠点としていました。近代日本を代表する劇作家、小説家、教育者である坪内逍遙らの姿は、各地に残る、石造物（記念碑、文学碑）としてつなげることができ、ストーリー「川のまちの文学碑」とします。

**方針** 文学碑が持つ歴史的背景を明らかにする調査を行う。また文学碑を保存・活用していく地域団体との連携を強化する。

- 措置**
- 「川のまちの文学碑」にまつわる「みのかも地域文化資源」の詳細調査
  - 「川のまちの文学碑」の保存・活用を担う団体との連携



◀ [坪内逍遙顕彰碑]



▶ [北原白秋 歌碑]

## 美濃加茂市の関連文化財群4 「川のまちの文学碑」

**概要** 豊かな自然に抱かれ、ゆったりとした時間が流れる美濃加茂市では、多くの文化人が生まれ、集まり、創作活動の拠点としていました。また、五街道の1つである中山道と飛驒へ向かう飛驒街道、関や郡上へ向かう関街道の分岐点であり、かつ水運の要である木曽川に面している中山道太田宿周辺では特に、さまざまな人が集まり、新しいひらめきが生まれる場所でもありました。美濃加茂市生まれの文化人として、近代日本を代表する劇作家、小説家、教育者である坪内逍遙、美濃加茂市で創作活動を続けた人物として岡本一平や林魁一、美濃加茂市ゆかりの文化人として、播隆上人、松尾芭蕉や北原白秋などがあります。

### 構成文化財の一覧及び分布図

No.	名称	指定種別	分類
1	坪内逍遙顕彰碑	未指定	石造物（記念碑）
2	蘇北吟社句碑	未指定	石造物（文学碑）
3	竹庭句碑	未指定	石造物（文学碑）
4	武田耕雲斎歌碑	未指定	石造物（文学碑）
5	岡本一平句碑	未指定	石造物（文学碑）
6	坪内逍遙歌碑	未指定	石造物（文学碑）
7	北原白秋歌碑	未指定	石造物（文学碑）
8	松尾芭蕉句碑	未指定	石造物（文学碑）
9	播隆上人歌碑	未指定	石造物（文学碑）
10	岡本一平終焉之地碑	未指定	石造物（記念碑）
11	長尾和男詩碑	未指定	石造物（文学碑）

### 関連文化財群に関する課題

- ・文学碑の歴史的背景やこの地に置かれた意味について知ることは、美濃加茂市の歴史文化を明らかにするうえで重要です。しかし、そのための調査が十分に実施できません。
- ・「川のまちの文学碑」を構成する「みのかも地域文化資源」は、地域の団体により保存・活用が図られているものがあります。文学碑を通して、歴史文化の特性を市民に伝えていくためには、こうした地域の団体との更なる連携が必要不可欠です。



### 関連文化財群に関する方針

- ・各文学碑が持つ歴史的背景を明らかにするために、学術的な詳細調査を行います。
- ・歴史文化の特性を市民に伝えていくために、坪内逍遙博士顕彰会など文学碑を保存・活用している地域の団体との連携を強化します。

### 関連文化財群に関する措置

#### 措置J 「川のまちの文学碑」にまつわる「みのかも地域文化資源」の詳細調査

逸失の可能性が高い文学碑にまつわる文化財から優先的に詳細調査を行う。

■市（文化振興課） ■R6～R15

#### 措置K 「川のまちの文学碑」の保存・活用を担う団体との連携

坪内逍遙博士顕彰会など、関連する「みのかも地域文化資源」の保存・活用を担う団体との連携を強化する。

■市（文化振興課）・関係団体・機関（坪内逍遙博士顕彰会） ■R6～R15

## 美濃加茂市文化財保存活用地域計画で対象とする文化財 「みのかも地域文化資源」

本計画作成段階に実施した市民へのアンケート調査等からは、美濃加茂市の「歴史文化」を構成するものは、指定等文化財に加え、国や県、美濃加茂市による指定等は受けていないものの、これまでの暮らしの中で地域の人々が誇りにし、かけがえのない大切なものと捉えているもの（未指定文化財）があることが明らかになっています。それら未指定文化財には、文化財保護法に基づく六類型として捉えづらかった、伝承や方言、地名など身近な暮らしに基づく文化財があります。

そこで本計画では、学術的な調査研究の成果をもとに長年蓄積されてきたことで、それぞれの価値が磨き上げられてきた①指定等文化財に加え、美濃加茂市の暮らしの中で大切にされてきた、人々の営みを表す②未指定文化財を対象とし、①、②の総体を「みのかも地域文化資源」として、保存・活用を図ることとします。

また、文化庁『地域総がかりでつくる 文化財保存活用地域計画－歴史文化で魅力ある地域へ』には、「歴史文化」が示されています。本計画の対象である「みのかも地域文化資源」のどれもが、美濃加茂市の地域らしさや地域の特徴を表す「歴史文化」（第3章）を構成するものとして大切なものです。それらを将来へつなげることを目指します。

### 「歴史文化とは」

地域に固有の風土の下、先人によって生み育まれ、時には変容しながら現代まで伝えられてきた知恵・経験・活動等の成果及びそれらが存在する環境を総体的に把握した概念。地域の歴史文化にまつわるコンテキスト。歴史文化の特徴は、地域らしさ、地域の特徴をあらわす。

文化庁『地域総がかりでつくる 文化財保存活用地域計画－歴史文化で魅力ある地域へ』(5頁)

### [本計画における文化財の定義]

## みのかも地域文化資源

### ①文化財保護法に基づく 指定等文化財 (序章 4-1、第 2 章 1)

#### 【六類型の文化財】

- ・有形文化財
- ・無形文化財
- ・民俗文化財
- ・記念物
- ・文化的景観
- ・伝統的建造物群
- 
- ・埋蔵文化財
- ・文化財の保存技術

### ②美濃加茂の暮らしに基づく未指定文化財 (序章 4-3、第 2 章 2)

#### 【六類型の文化財】

- ・有形文化財
- ・無形文化財
- ・民俗文化財
- ・記念物
- ・文化的景観
- ・伝統的建造物群
- 
- ・埋蔵文化財
- ・文化財の保存技術

#### 【文化財保護法として捉えづらかった 六類型以外の文化財】

伝承・方言・地名など

## II 身近にある、「みのかも地域文化資源」 —いろいろな視点や切り口から—

### II - 1 市内の校歌を読み解く

現在ほとんどの学校で制定され、行事や集会など様々なシーンで歌われている校歌。そこには地域の自然風土や歴史文化が歌い込まれ、学校をとりまく当時の人々が見、そして感じていた風景がみずみずしく映し出されています。また校歌制定の背景には作詞者・作曲者をはじめ教育に携わる人々の独自の願いがあり、それが歌詞としてにじみ出ています。一方で、時にそこにあらわれる表現には当時の社会風潮が投影される場合もあり、当時の歴史的な背景を想像させます。ここでは実際の歌詞や関連資料をもとに、市内で生まれた校歌に込められた意味や思いを紐解いていきます。

### 市内で歌われる校歌の特徴

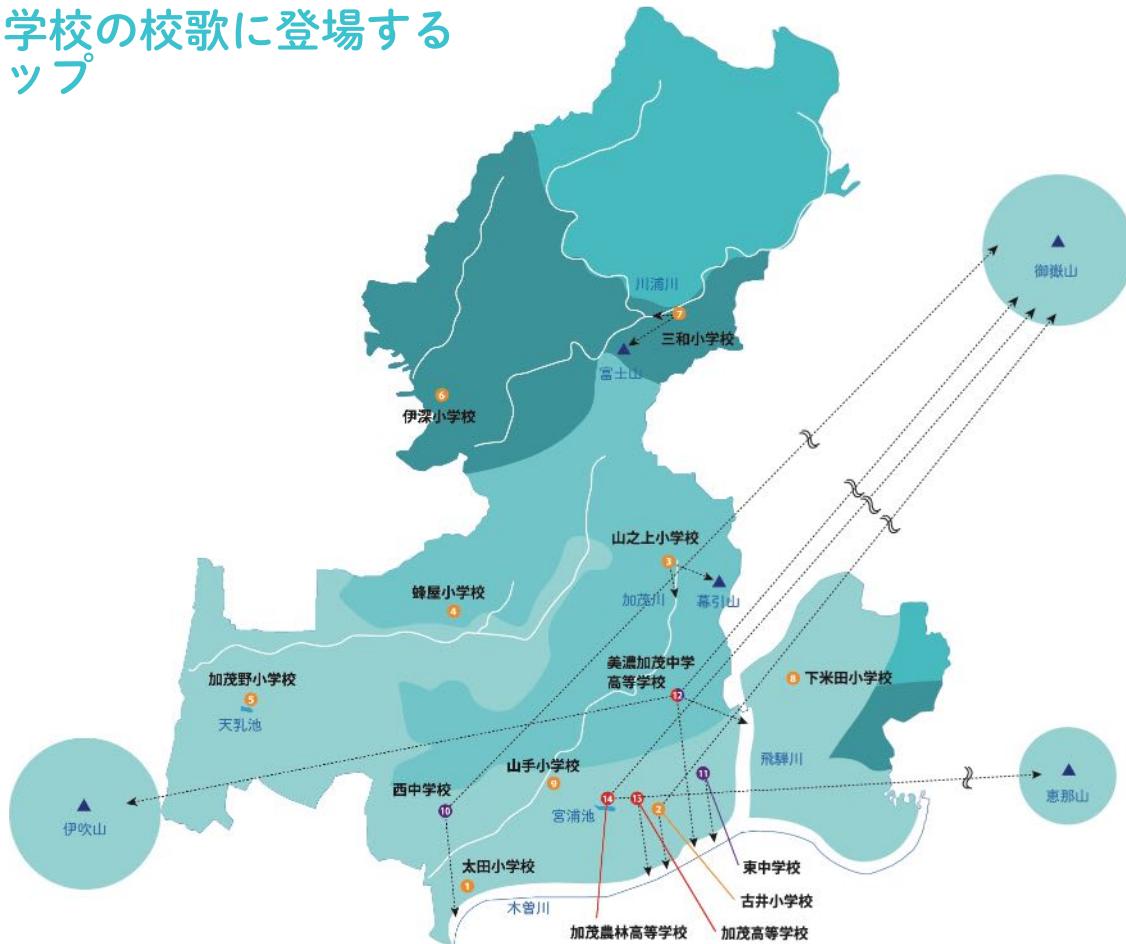
市域で歌われる学校の校歌には、その多くに学校を取り巻く地理的な環境が表れています。南部の平地にある学校でははるかに望む御嶽山や木曽川が頻繁に登場し、そこに子どもに求める大きな志や心の清らかさが投影されていることがわかります。一方で、北部の丘陵地など山あいの学校では地域に程近い山川が歌われます。

このように学校の立地と校歌に登場する自然風土から美濃加茂の地勢が推察できることも興味深いです。なかには蜂屋小学校の「蜂屋柿」や伊深小学校の「無相大師ゆかりの地」など、その土地の名産や歴史を歌う学校もあり、子どもたちに歌い継がれることで、郷土に対する愛着を育んでいきました。



II - 1 - 4 『みのかも市報』第 113 号  
1968(昭和 43) 年 11 月 1 日発行 館蔵

# 市内の学校の校歌に登場する 地勢マップ



## 市内の学校（小学校・中学校・高等学校）の校歌と そこに登場する歌詞 [一覧]

\*歌詞の内容や制定年、作詞・作曲者などは、みのかも文化の森の館蔵資料や学校で発行されている沿革記念誌、ホームページの情報の調査によるものです。

	学校名	制定(発表)年	作詞	作曲	歴史・文化	地勢・地理	自然	産業など
①	太田小学校	昭和32年	1957年	小栗 憲八	高橋 千代子	せせらぎ(1番)	大き銀杏(2番)	
②	古井小学校	昭和42年	1967年	古田 花子	桑原 哲郎	かがやく歴史(1番)	御岳、清い流れの木曽川(2番)	さくらの庭(1番)
③	山之上小学校	昭和22年	1947年	堀部 令之佑	金城 待英	歴史は長し(2番)	幕引きの山、加茂の流れ(1番) 山懐(2番)	鳩、香る木の実(1番)
④	蜂屋小学校	大正5年	1916年	坪内 達造	田村 虎藏	千歳のむかし(1番) 千年も変わらぬ風のたから(3番)		木の実(3番)
⑤	加茂野小学校	昭和46年	1971年	古田 花子	和田 三里		天乳池(1番)、加茂野の大地(2番)	柿(1番) (2番)
↓	伊深小学校	大正9年頃	1920年	清水 喬三郎	川口 逸夫	無相大師の開かれし正眼禪寺(1番) 村の歴史、佐藤駿河の旧領地(4番) 星の宮(5番)	宇円照の中央地(5番) 村境流れる川浦の水(6番)	発電所、 輝き渡る電気灯(8番)
↓						高倉神社、諏訪神社、賀茂神社、 村の祭(6番)		
↓						正眼寺、禪徳寺、竜安寺、ト雲寺、 最乗寺(7番)		
↓	昭和2年	1927年	早川 敏	不明		名利(1番) 大師苦行の跡、幾ももとせ(2番) 見桃庵の跡、秀文義校(3番)	美濃の山中(1番)	
↓						明治六年見桃庵、 無相大師ゆかりの地、秀文義校(2番)	めぐらす山、流れる水、 せせらぎの唄(1番)	みどりの風、自然の恵(1番)
↓	三和小学校	昭和初期	—	早川敏	不明	川浦川のせせらぎ(2番) お富士の峰、高い山(1番)	山はみどりに水は澄み(3番)	
↓						川浦川のせせらぎ(2番)		
↓	下米田小学校	明治時代中頃	—	不明	不明	轟したたる白山、流れ静けき飛騨川、 水に枕し山おおい(1番)		
↓								
↓	山手小学校	昭和51年	1976年	古田 花子	桑原 哲郎			緑がそよぐ、木々(1番) 木もれ日、安らぎの自然林(2番)
↓	太田中学校 *	昭和24年	1949年	武藤 七郎	藤岡 礼清	そびゆる雲(1番)	濃尾の平野、巾上の高き丘(1番) 木曽川の清き流れ(2番)	
↓	西中学校	昭和43年	1968年	鶴見 匠一郎	和田 三里	ここに生まれた先覚(3番)	雲にかがやく御嶽(1番) 流れゆたかな木曽川(2番)	
↓	山之上中学校 *	昭和22年頃	1947年頃	武藤七郎	小森 真太郎	文化日本建設(1番)	山(1番)	峰にみのる桃梨、 自然の恵み(1番)
↓	東中学校	昭和37年	1962年	江口 夜詩	江口 夜詩	文化はここから(1番)	山並(2番)、木曾川(3番)	
↓	美濃加茂中学高等学校	昭和48年	1973年	宮沢 章二	中田 一次		木曽の流れ、飛騨の水(1番) 伊吹おろし、雪の御岳(2番)	波(1番)、梨の花(3番)
↓	加茂高等学校	昭和26年	1951年	石森 嘉男	下條 純一	歴史ある、おこさん文化(3番)	山新し(2番)、木曾の流れ(3番)	
↓	加茂農林高等学校	昭和37年	1962年	江口 夜詩	江口 夜詩		緑の沃野大地(1番)、廻らす池(2番) 御岳 東別(3番)	
参考	加茂農林学校 *	昭和2年頃	1927年	長尾 和男	不明		木曽川、御嶽連峰、美濃の原(1番)	春爛漫の花の影(1番)
	古井実科女学校 *	大正14年頃	1925年頃	不明	不明		木曽川(1番)	天地のめぐみ、草木のみどり(1番) 美し八束穂(2番)

## 坪内逍遙と蜂屋の校歌

名産の蜂屋柿が登場する蜂屋小学校校歌は、坪内逍遙（1859-1935）の作詞により1916（大正5）年に制定された市内のなかでも特に歴史の古いものです。当時27歳だった校長の有賀好風は、知人の伝手を頼りに太田出身の坪内逍遙に作詞を依頼しました。当時54歳の坪内逍遙はすでに大きな名声があり、早稲田大学教授を辞任した翌年にあたります。「国のために」という言葉には時代の風潮が垣間見えますが、逍遙作詞の菅原小学校（現 名古屋市立名城小学校）、早稲田中学校の校歌にも「愛国」など共通した表現が見られ、教育者でもあった逍遙の学業に対する考え方も反映されているようです。1919（大正8）年、逍遙が太田の虚空蔵堂を訪れた際の写真には好風の姿も写り、残る書簡からも2人の交友は長く続いたと思われます。



【ムクノキ前での記念撮影】

1919（大正8）年、鈴木清次郎 撮影 館蔵



校歌碑（蜂屋小学校）

蜂屋小学校 校歌

作詞：坪内逍遙  
作曲：田村虎藏

一・千歳のむかしにその名高く  
雪居の供御ともなりぬる柿

二・名に負う柿こそ村のほまれ  
今なお天下にたぐいあらず  
蜂屋 壳屋 壳屋 壳屋

三・ああ木の実だにも品出清ければ  
千年もかわらぬ國のたから  
蜂屋 壳屋 壳屋 壳屋

四・ああわれも人の子学びはげみ  
宝となればや國のために  
蜂屋 壳屋 壳屋 壳屋

五・奮えやはらからむつみ扶け  
宝となればや國のために  
蜂屋 壳屋 壳屋 壳屋

◆ 1916（大正5）年7月22日 制定認可 『蜂屋小学校沿革誌』  
◆ 典拠：蜂屋小学校校歌碑（昭和47年作成）蜂屋小学校

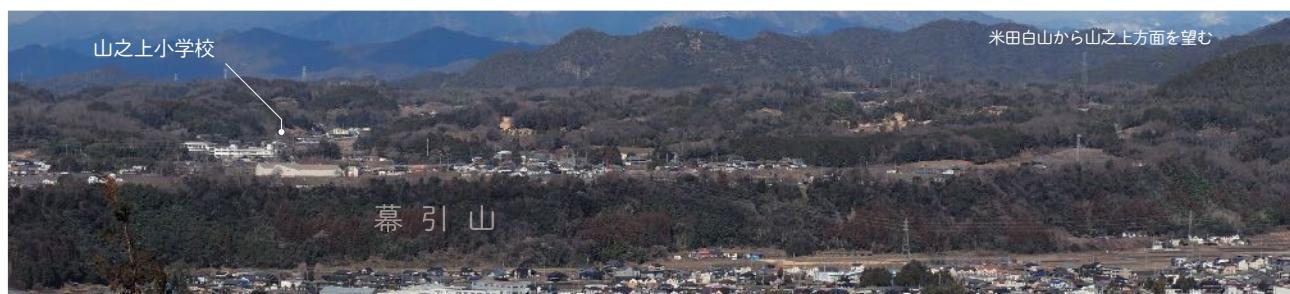


II-1-6 官製はがき

蜂屋小学校の1番の校歌と  
楽譜が印字されたはがき。

# 地域の心をつなぐ校歌

山之上小学校の校歌には、加茂郡川辺町との境にある「幕引山」や木曽川の支流「加茂川」など身近な山川が歌詞に織り込まれ、郷土の情景が鮮やかに表現されたものです。戦争からの復員後に小学校に赴任してきた堀部令之佑(ほりべれいのすけ)によって初めて作詞され、1947(昭和22)年に校歌発表会を迎えました。1991(平成3)年のPTA会報からは、堀部が戦後の混乱期において、学校として子どもたちにできることを模索するなか、人々の心の拠り所になるような校歌の作成を思い立ったことが推測できます。戦後まもない山之上は、この小学校校歌をはじめ、山之上中学校校歌(昭和22年頃制定)、「山之上音頭」(昭和24年制定)など次々と地域をあらわす歌が発表されており、歌を通して人々を結び付け、郷土を盛り上げていこうしたのでしょうか。



山之上小学校校歌

一・さぎり晴れゆく 幕引の  
山にほろほろ 鳩が鳴く  
加茂の流れは 清くして  
香る木の実は 山に満つ  
我等のふるさと ああ山之上

二・山ふところに 抱かれて  
歴史は遠く 時きざむ  
学びの道に 勤しみて  
明日の祖国を になわなん  
我等の学びや ああ山之上

◆ 1947 (昭和 22) 年 制定  
◆ 典拠:『山之上小学校開校 150 周年記念誌 山之上の宝』  
(令和 5 年 12 月 1 日発行)

## II-1-7 山之上小学校 PTA 会報

1991(平成 3) 年 発行、原本：山之上小学校 蔵

## II - 2 「鯉つかめ」と美濃加茂伝承料理の会

地域の生活に根ざした食は、その土地の風土や文化と深い結びつきを持っています。当館では、2000(平成12)年の開館当時から、食文化を地域の大切な文化資源のひとつに位置づけ、市民ボランティア「美濃加茂伝承料理の会」を中心に継続的な調査や講座を行ってきました。こうした活動は、大みそかの郷土食「大歳のごつお」が地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化である「100年フード」として2022(令和4)年度に文化庁から認定されることにもつながりました。



【「鯉つかめ」と伝承料理の会】展示風景

### 「美濃加茂伝承料理の会」



伝承料理の会活動風景 2008(平成20)年

「美濃加茂伝承料理の会」はこの地域に伝わる食事を調べ・伝える市民ボランティアです。発足は1999(平成11)年。毎年10~12回行われる四季を食べる講座で、この地域の料理を再現し体験してもらうほか、文化の森で開催する展覧会に合わせた特別講座で展覧会を料理という側面からより味わい深いものとしています。

また、会員の記憶をたどることや、地域の人びとの聞き取り、博物館資料の調査を通して美濃加茂市域に伝わる食やそれにまつわる行事の情報収集も行っています。こうして蓄積された情報は、料理レシピ集『おばあちゃんちのおかって』などの書籍にまとめられ、地域の食文化を伝えています。



II-2-1~5 『おばあちゃんちのおかって』  
美濃加茂伝承料理の会 館蔵

## 鯉つかめ

加茂野町稻辺にある農業用の溜池・稻葉池では、そこで養殖された鯉を量り売りする「鯉つかめ」がおこなわれてきました。

養殖が始まったのは1901(明治34)年頃。鯉は冬に土岐や可児から買い入れ、タニシや蚕のさなぎを与えて育てました。大正時代には、太田町まで荷車を引いて蚕のさなぎを貰いに行っていたことが記録されています。11月、稻作が終わると池の水を落し、何千匹もの飛びはねる鯉を捕まえて、集まった人に売っていました。「鯉つかめ」は大変な賑わいで、市内外から大勢の人が訪れました。鯉をわらで作ったコモに包んで持ち帰るほか、その場で煮て食べることもできました。しょうゆや砂糖で味付けし大きな鍋で煮た鯉は味が染みてとてもおいしかったといいます。1914(大正3)年には『大日本水産会報』という雑誌において、耕地の少ない同地において収入を得るために始まった稻辺地区の鯉の養殖は、経営が成功した例のひとつであると評価されています。しかし、昭和30年代後半になると時代の変化とともに徐々に行われなくなりました。

2016(平成28)年には美濃加茂伝承料理の会により「四季を食べる講座 鯉つかめ」が開かれ、鯉こく(鯉の汁物)や鯉の煮つけを実際に調理して試食。聞き取り調査の結果報告も行われました。こうした活動は、今は廃れてしまった食や行事の掘り起こしにもつながっています。



特別講座「鯉つかめ」の様子 2016(平成28)年



II-2-8 コモ 館蔵

稻わらを材料に編んだ筵（むしろ）の一種。一般的な筵よりも荒く編まれているのが特徴です。稻葉池の鯉つかめで鯉を買った人はコモに包んで鯉を持ち帰ったそうです。



II-2-7 蚕のさなぎ 館蔵

蚕はカイコガ科の蛾です。蚕の作るまゆは絹糸の原料になるため、古くから世界中で飼育されてきました。美濃加茂市域では明治末期頃から盛んに飼育され、収穫されたまゆは製糸会社に売却されました。稻辺地区では、まゆから糸を取った後に残る蚕のさなぎを鯉の餌にしていました。

## 「鯉つかめ」の思い出 美濃加茂伝承料理の会による聞き取り調査

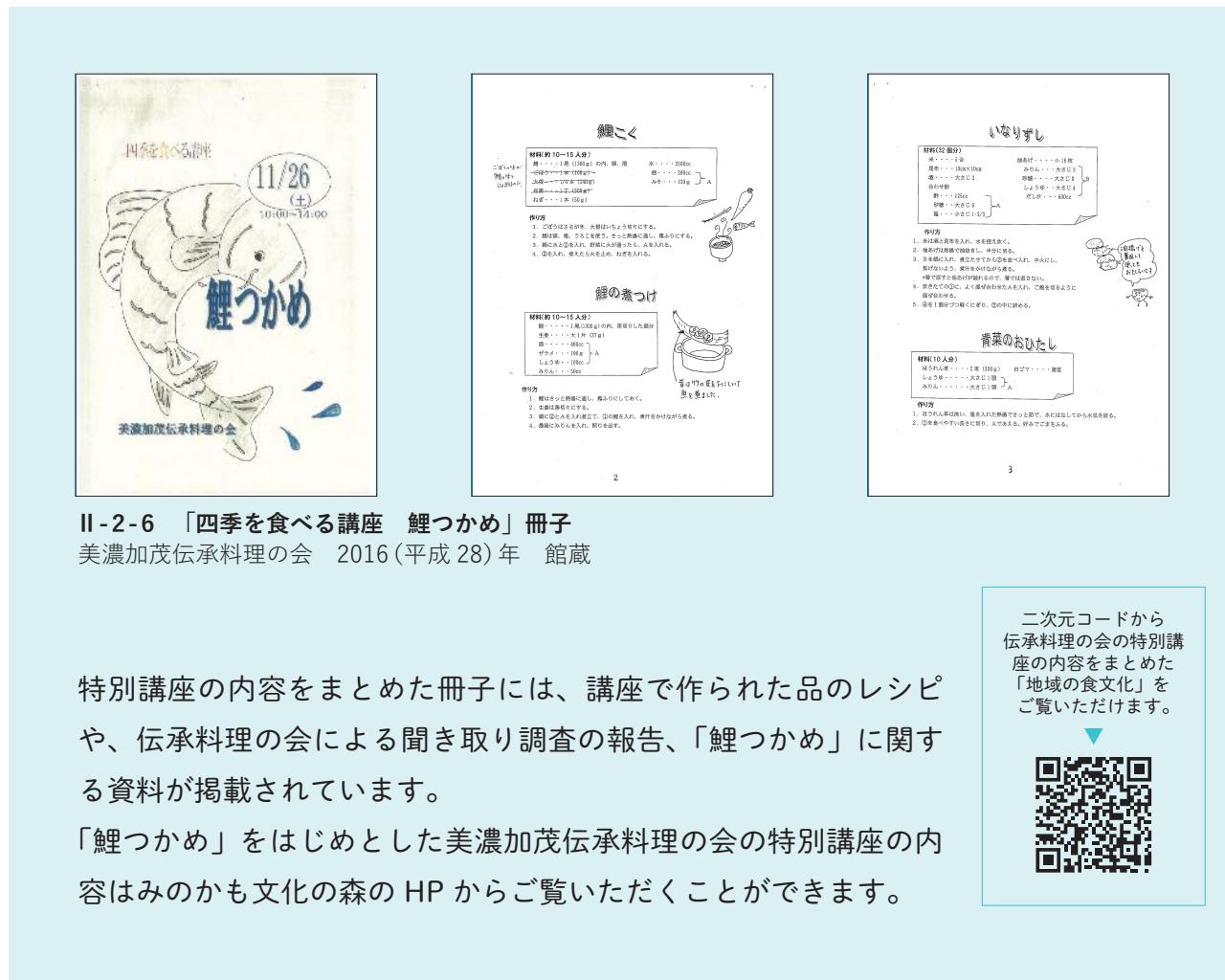
特別講座「鯉つかめ」冊子より抜粋

T.Mさん（昭和11年7月12日生 美濃加茂市加茂野町稻辺在住）

「鯉つかめは子どもの頃…5才～6才頃から覚えがあるな。その頃はタカマチ（露店）も出とったしな。賑わつとった。昭和15年頃かなあ…。ほでも、昭和18年、20年、戦時中や戦後はやってなかつたな。一番、にぎわつとつたのは、やっぱり、子どもの頃やなあ。

昔は、田植えする時、池は、灌水する貴重な水やつたもんで、その間（田に稻が育っている間は水を）落とせんわけよ。で、稻刈りが終わってからしか（鯉つかめを）やらんっていうのが、11月23日よ。それと鯉のとらまえて（捕まえて）持つてく時期よ、暑い時はじっきに（すぐに）死んでしまうで。この時期が、コモに包んで、家へ持つて帰つてもまだ生きとるつう、いい時期よ。若い男が中心になってやつとつた。

続きを読むは次ページ記載の特別講座「鯉つかめ」冊子・二次元コードよりインターネット上でご覧いただけます。



特別講座の内容をまとめた冊子には、講座で作られた品のレシピや、伝承料理の会による聞き取り調査の報告、「鯉つかめ」に関する資料が掲載されています。

「鯉つかめ」をはじめとした美濃加茂伝承料理の会の特別講座の内容はみのかも文化の森のHPからご覧いただくことができます。

二次元コードから  
伝承料理の会の特別講  
座の内容をまとめた  
「地域の食文化」を  
ご覧いただけます。



## 【伝えたい 地域の食と豊かさ】展示室の様子

## II - 3 のりづきとしおが描く地域の風景

車で各地に出かけ、その地で見つけた面白い風景や建物を、独自の捉え方で描く水彩画家・のりづきとしお氏(1952年-)は美濃加茂でも多くの絵を描いています。地域の人にとって身近な場所も、画家の旺盛な好奇心と卓越した描写力にかかるれば、特別な風景と化します。地元の人と交流し、暮らしの様子や生業の歴史を描き出した作品は新鮮に、地域のさまざまな魅力を伝えます。

このコーナーでは主に、2017(平成29)年に当館で開催した「山之上展」に出品した山之上の風景画を展示しました。作家が長年、この周辺のフィールドワークで描き留めてきた「ベーハ小屋」(煙草乾燥小屋)の作品群から山之上で描いた絵を紹介しました。



II-3-1 《伊深町 美濃加茂》  
黒色鉛筆、透明水彩、紙  
2005(平成17)年12月25日 個人蔵

描かれた建物は1936(昭和11)年に建てられた市内に現存する唯一の戦前の町村庁舎・旧伊深村役場庁舎です。大正から昭和の地方公共建築を伝えるこの貴重な建物は2016(平成28)年に国登録有形文化財となり、翌年改修工事が行われました。のりづき氏がこの絵を描いたのは登録前のことです。

旧伊深村役場庁舎 ▶



## 山之上のベーハ小屋



右：II-3-2 《ふれ愛バス金谷 山之上町》 ポールペン、透明水彩、紙 2012(平成24)年12月21日 個人蔵

左：II-3-3 《山之上町／美濃加茂市》 黒色鉛筆、透明水彩、紙 2019(令和元)年7月6日 個人蔵

右は金谷地区、左は田畠地区に現存。左の小屋は特に瓦屋根と土壁の美しさに心惹かれたと作家は語る。

ベーハ小屋とは「米国の葉=葉たばこ」の乾燥小屋です。のりづき氏は小さな屋根が重なる独特の構造を持つ建物の美しさに惹かれ、車でドライブしながら見つけた山之上や川辺の周辺にあるベーハ小屋を幾つも描きました。2016(平成28)年に当館で開催した「のりづきとしお展」ではベーハ小屋のシリーズ19点を展示しました。本展では山之上の金谷地区と田畠地区に現存するベーハ小屋を描いた2点を、のりづき氏のコメントと共に紹介しました。

暮らしの中にある身近な風景や建物を描き留めるのりづき氏は絵を描くだけでなく、現地に住む人々と話す時間をとても大事にしています。乾燥小屋は葉たばこの生産を終え、倉庫などに使われている場合が多いため、のりづき氏はたばこを生産していた頃の様子を家の人に尋ね、当時の暮らしや苦労話を聞き取りつつ、絵を描きました。ベーハ小屋は地域の生業を象徴する建造物であり、その景観を記録した氏の作品は今後、地域の文化と歴史を示す資料ともなるでしょう。

II-3-4 《金谷地区 山之上／みのかも》

黒色鉛筆、透明水彩、紙

2017(平成29)年11月18日 個人蔵

金谷地区の山道沿いから見える風景をパノラマのように描いている。



## II - 4 ライン焼／蘇峠焼

1935(昭和10)年頃まで現在の富加駅の南でやきものが作られていました。土岐郡下石の製陶業出身の加藤友平(本名:正三郎／1885-1935)は燃料の赤松や良質な土が採れ、瓦窯の盛んだったこの地に移り住み、加茂野に登り窯を築きます。初窯は1925(大正14)年と伝えられ、坂祝辺りの木曽川の岩場に咲く岩つじをイメージした赤い斑点の釉薬が特徴です。後に童話作家の巖谷小波<sup>いわやさざなみ</sup>(1870-1933)が「蘇峠焼」と命名しました。銘印はライン／ライン焼／友平など多種あります。展示品は湯呑や鉢などですが、この窯では鮎の内臓を漬けた「うるか」や大根の福神漬「孫六漬」の容器も製造しました。また友平は郡上八幡で寺脇栄吉の築窯を指導し、この窯で茶碗や花瓶など利平焼が作されました。



1992(平成4)年、大畠守道氏(美濃加茂市文化財保護審議委員会)、水野亘雄氏(岐阜県博物館学芸課)、可児光生(美濃加茂市社会教育課/当館館長)の3名がライン焼の調査のため、加藤友平のご遺族を訪ねています。その翌年、岐阜県博物館での特別展「土と炎の芸術～ふるさとに息づく技と心～」にライン焼が大々的に展示紹介されました。

この時の調査の際に確認したライン焼の宣伝チラシには「数ヶ年の艱難辛苦と数十窯の研究により」「寒中氷結にも火氣に直接掛けても絶対に破れない」とあります。ライン焼は、太田の日本ライン下り乗船場の近くや犬山城前の通りに店で販売されていました。



左：II-4-2《湯呑》館蔵  
右：II-4-3《鉢》館蔵



右から：II-4-7《花瓶》館蔵、II-4-6《湯呑》館蔵、  
II-4-5《鉢》館蔵、II-4-4《徳利》館蔵

## 1992年の調査時に加藤友平のご遺族から提供頂いた写真について

加藤友平が加茂野に築いた窯は、大型の連房式登窯でした。[写真(1)]この窯で茶器や花瓶類を焼成していました。上絵付けは無く、全て施釉のみで仕上げられました。

(2)は製作所の写真です。左の看板に「ライン蘇峠焼元加藤友平」、右の看板に「石田流家元秀翠先生桔梗投入花瓶製作所」とあります。石田流は名古屋市に本部を置く、中国の南宗画の影響を受けた文人華の生け花の流派です。花を生ける花瓶を製作していたと推測できます。

友平は後進の育成にも力を注いだようで生徒に教えるための楽焼窯もあったと伝えられています。当館では今回の展示品の他に、高台周辺に「友平先生について二年目」と彫った器も所蔵しています。



写真(1) 黒煙を上げる窯



写真(2) ライン焼 製作所



◆友平窯があったと推定される場所  
美濃加茂市加茂野町鷹之巣字頭割

\* ライン焼／蘇峠焼の調査時(1992年)に加藤友平のご家族から提供頂いた写真の著作権者を特定できませんでした。情報がありましたら当館までご連絡下さい。

## II - 5 このあたりは植物分布の「交差点」

人が植えたり育てたりしたのではなく、もとから生えている植物にはどのような種類があるのか、ということがその地域の特有の植物の分布を示します。わたしたちの住んでいるまち・美濃加茂市に生育する植物にも、この地域ならではの特色があります。一つは、寒い地域に分布する植物（日本海要素植物）と暖かい地域に分布する植物（太平洋要素植物）がみられること、二つ目は日本の西側と東側の地域でそれぞれよく見られる植物も分布していることです。

この地域の気候や地理的条件などにより、多様な植物が交わりながら分布しているのが、このあたりの植物の特色と言うことができます。

### 植物標本から

美濃加茂市民ミュージアムでは、美濃加茂市や加茂郡など近隣の市町村に生育する植物の標本を中心に収蔵しています。これらの標本は、植物の成長に合わせて若い時期や年数の経った時期、花や実の時期、地域などを変えて収集しています。そして標本を作る時には、葉の表側も裏側も見ることができるように、つまり両面とも見える形に整えて押していきます。花の部分もおしべやめしほが見えるようにするなど、植物の特徴を見られるようにします。今回展示した10点の植物標本もそのように作られています。

写真と違う点は、葉の表面や茎の毛など細かな部分までじっくり観察できることです。時には顕微鏡を使って観察します。



## 展示了 10 点の植物標本

植物分布の「交差点」を表現するため、寒い地域に分布する植物（日本海要素植物）を上部に、暖かい地域に分布する植物（太平洋要素植物）を下部に、西日本に分布する植物を左側に、東日本に分布する植物を右側に配置しました。



II-5-1~21 展示した植物標本 館蔵

### 「交差点」の代表植物標本（館蔵）

標本名  
モチツツジ

分布  
西日本に多い

標本名  
マルバノキ

分布  
西日本に多い

標本名  
オオタチツボ  
スミレ

分布  
日本海要素植物

標本名  
ショウジョウ  
バカマ

分布  
日本海要素植物

標本名  
ミツバツツジ

分布  
東日本に多い

標本名  
ササユリ

分布  
西日本に多い

標本名  
ヤブツバキ

分布  
太平洋要素植物

標本名  
シキミ

分布  
太平洋要素植物

標本名  
ゾヨゴ

分布  
太平洋要素植物

標本名  
ヤマユリ

分布  
東日本に多い

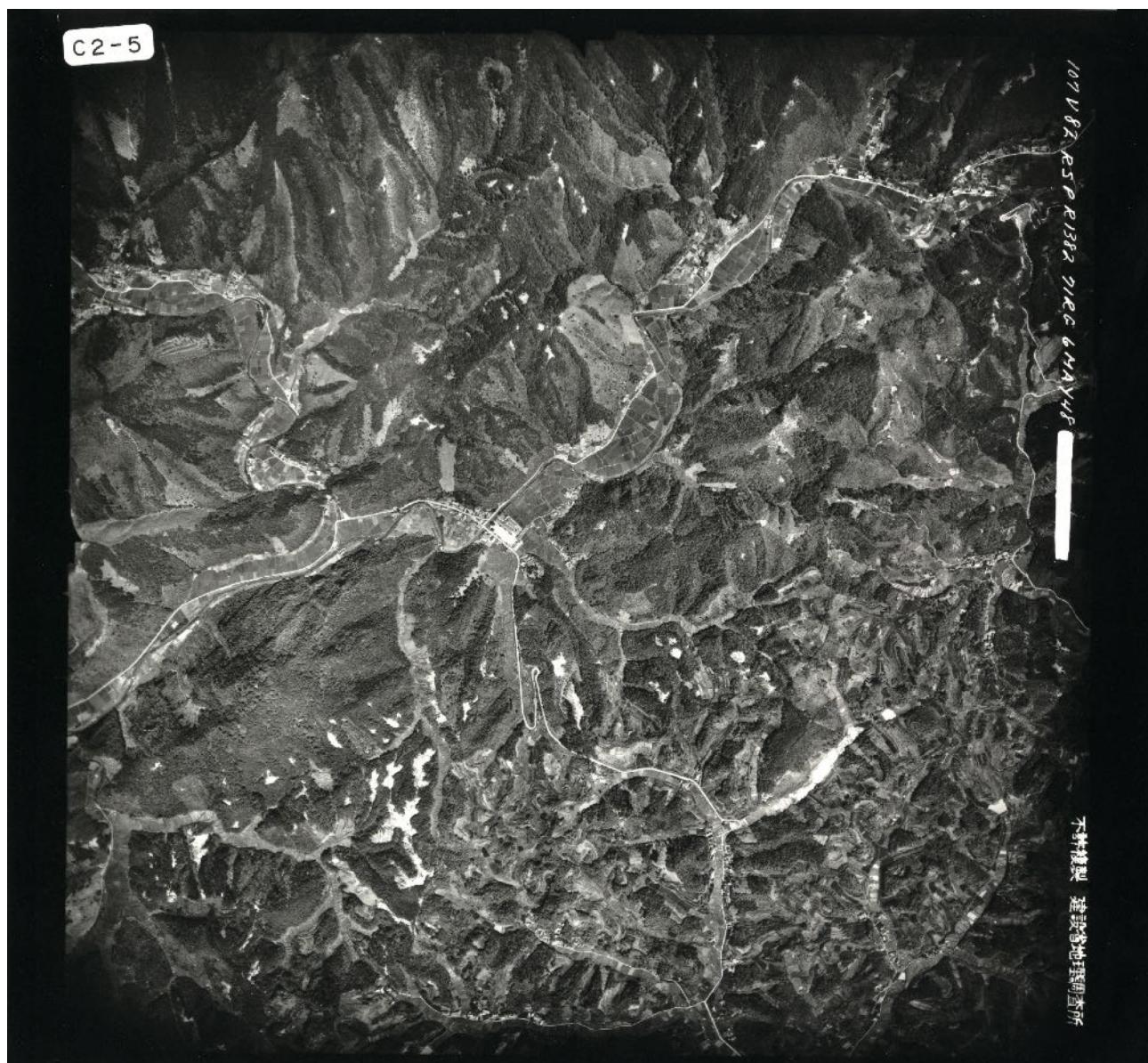
## 身の回りの「緑色」の風景 ～航空写真から～

美濃加茂市の様子を空から見られるように、2年前に撮影した航空写真をマットにして展示しました。

美濃加茂市の北部地区、伊深町や三和町には緑がかなり広がっています。緑色が濃いところは、密に木が生えているところです。高速道路など大きな道路も目に留まります。また文化の森の周辺から南にかけては、住宅や大きな建物（工場や学校、店舗など）が広がっています。薄黄緑色や茶色の部分は田んぼや畠が広がっています。市街地にも緑色が広がり、木の生えているところが広がっていることが分かります。

緑が少なくなっているといわれる現代ですが、第二次世界大戦後の航空写真と比べると、今のはうが緑が多く広がっています。





第二次世界大戦後（1948（昭和 23）年）に撮影された三和小学校周辺の航空写真



2つの航空写真を比較して見てもらうために、同様の区域を赤い枠で示しました。

## II - 6 一人ひとりが見つけた「出土品」

古くから、出土品や遺跡は、人々の興味や好奇心の対象となっており、強く惹きつけてきました。1877(明治10)年、日本で科学的な考古学研究が始まってからも、大学や研究機関に留まることなく、全国各地で様々な立場の人々が調査や研究に関わることで、進展してきたといえます。

美濃加茂市でも、身近な場所から「出土品」を発見し、その内容等を明らかにしようとしてきた人々がいました。ここでは、そのような人々が残したものから、活動する姿に思いを馳せてみました。



II-6-1 夏休み社会科作品「拾えたよ！土器」  
佐々木美穂 作成 紙箱（土器片）、地図、表 館蔵  
為岡遺跡（下米田地区）の付近に住んでいたことで、  
関心を持つようになりました。自分で遺跡を発見し、  
記録を積み重ねました。





II-6-1 夏休み社会科作品「拾えたよ！土器」  
佐々木美穂 作成 紙箱（土器片）、地図、表 館蔵



II-6-2 石器類（日比野修一コレクション）  
縄文、弥生時代 石 館蔵  
日比野修一コレクション。亀淵遺跡（古井地区）の出土品が中心と考えられます。縄文～弥生時代。付属品（収納箱）は自作です。



II-6-3 石器類（安藤正義コレクション）  
縄文、弥生時代 石 館蔵  
安藤正義コレクション。美濃加茂市ほか県内各地の遺跡で、遺物を採集しました。『美濃加茂市民ミュージアム紀要 12集』に掲載。

## II - 7 これまでにも紹介してきた「みのかも地域文化資源」



II-7-1 「まちのいいもの よいところ 山之上 展」ポスター  
紙・パネル 館蔵



【II - 7 これまでにも紹介してきた「みのかも地域資源」】展示風景



## バス停からの小さな旅展ポスター 紙・パネル 館蔵



「バス停からの小さな旅 36 「むくの木・そうきち線」から木曽川と飛騨川が合流するところ「川合」を訪ねて」『暮らしの情報紙「広報みのかも」』(美濃加茂市経営企画部、2022(令和4)年4月10日発行)、2頁

# MINOKAMO STORY

## わたしの好きなみのかも

馴染みの場所、いつも通る道、毎日会う人、私たちは日常の中で多くの景色や人に出会いますが、その時の気分や感情で、見え方や感じ方はさまざまです。この「ミノカモストーリー」は、このまちにゆかりのあるさまざまな人の想いを取材し、その人たちの視点で紹介したものです。

取材を進めていくと、いまの美濃加茂市は、いろんな人たちの想いが巡り巡って形作られてきたんだなと改めて思いました

まちに対する思いは十人十色ですが、まちへの愛着や誇りは年月が経っても変わることなく、今を生きる私たちも、この先を生きていく世代にも、それは受け継がれていくことでしょう。



# 「MINOKAMO STORY 15 チャートの造形美」 『MINOKAMO STORY vol.1』(美濃加茂市、2021(令和3)年)

## II - 8 佐野一彦が見た「みのかも地域文化資源」

民俗学者・佐野一彦（1903-1997）は、1945（昭和20）年3月、加茂郡伊深村（現・美濃加茂市伊深町）に妻のえんねや家族と疎開。その後、この地に腰を落ち着けました。佐野は村人とともに過ごすうちに、地域の暮らしぶりや言葉を学び、伊深地域の住まい、年中行事、自然、言葉などを幅広く調査し、「美濃伊深村の民俗 正編」などに書きとどめました。佐野のまなざしによってとらえられた伊深の風景や文化はまさに「地域文化資源」といえるでしょう。佐野の手稿の内容を中心に、手書き地図や撮影した写真を通じて、佐野が記録した伊深の暮らしと風景をご紹介します。

### 佐野一彦（1903-1997）

東京生まれの哲学者・民俗学者。ドイツに留学後、神戸商業大学（現・神戸大学）教授などを務める一方、文化史、社会学、民俗学などの研究を深めました。戦争の激化とともに、1945（昭和20）年3月、加茂郡伊深村（現・伊深町）に妻のえんねや家族と疎開。やがて定住し、地域の歴史や民俗についての調査研究を進めました。佐野は昭和30年から40年代にかけて身の回りの暮らしや里山の風景の写真を約8000点撮影したほか、日々の出来事を克明に書き記した「伊深日記」（全310冊）も残しています。こうした佐野の手による数々の記録は、現在の地域文化資源を考える上でも欠かせない資料です。



佐野一彦  
1964（昭和39）年12月19日撮影

### 伊深村

美濃加茂市北西端に位置する地域で加茂郡富加町、関市に接しています。江戸時代からは加茂郡伊深村となり、村のほとんどが旗本・佐藤氏の知行地でした。1889（明治22）年の市町村施行により1村で自治体を形成し、1954（昭和29）年の町村合併により村域は美濃加茂市伊深町となりました。

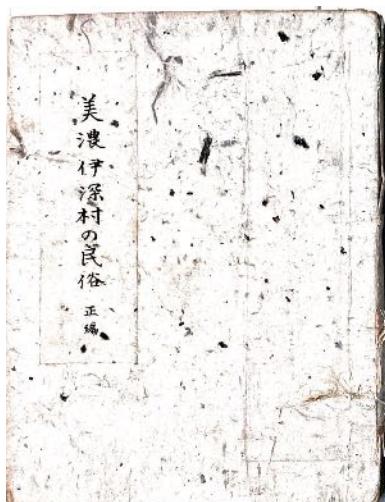


美濃加茂の地区別地図

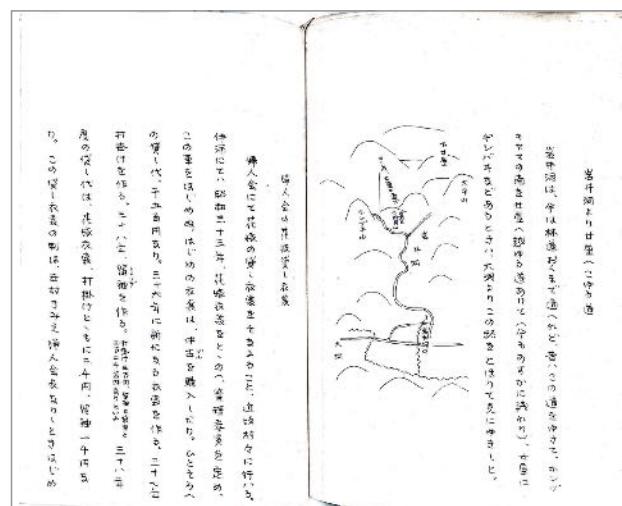
## 伊深の暮らしを記す

加茂郡伊深村（現・伊深町）に疎開した佐野は、村人たちとともに暮らしながら、地域の風俗や習慣を深く学んでいきます。戦後間もない1948（昭和23）年の夏にはそうした生活の中で得た知見をもとに「美濃伊深村の民俗 正編」をまとめました。本書には住居の造りや衣服、年中行事、言葉遣いなど、村の暮らししぶりが詳しく記録されています。この本は民俗学者・柳田国男にも送られました。その後も佐野は執筆を続け、「伊深村の民俗 外篇」（2巻）、「美濃伊深村の歴史と民俗」（3巻）、「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇」（33巻）を残しました。

これらの資料には、伊深の風習や地名、自然、歴史、寺社など伊深にまつわるさまざまな事柄が丹念に記述されており、昭和20～50年代の伊深の風景と人びとの暮らしを伝える、貴重な資料となっています。



II-8-2 佐野一彦著「美濃伊深村の民俗 正編」  
1948(昭和23)年 館蔵



佐野一彦著「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 巻拾」  
1966(昭和41)年 館蔵



II-8-4 佐野が使用したカメラ  
個人蔵

佐野は昭和30年代～40年代を中心に、民俗学者の眼から見た身の回りの光景を約8千枚の写真に残しています。展覧会ではその一部を紹介したほか、スライドショーの上映も行いました。佐野が撮影した写真の一部はみのかも文化の森ホームページ、データベース「図鑑的昭和生活」でご覧いただけます。



【II-8-33 佐野一彦撮影写真スライドショー】の様子

二次元コードから  
「図鑑的昭和生活」を  
ご覧いただけます。



## 岩石の上の石仏たち

佐野は伊深地区で見られる数々の石造物をスケッチや手書き地図とともに記録しました。

佐野の記録によれば、伊深の追洞から大洞に抜ける道の傍らに小高い岩があり、そこに石仏や石碑あわせて7つの石造物が見られることがわかります。これらの石造物についての記述は「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇」の中で何度も登場します。この場所は佐野の自宅のそばにあり、佐野がこの石造物に特に関心を寄せていたことがわかります。

多くの石仏・石碑がたつこの岩のそばには大洞道とよばれる旧道が通っていました。佐野の記述によれば、岩石の上には大きな木が生えており、その木陰で道行く人や馬がひと休みしていたそうです。岩の上にたつ石造物は、現在では倒れてしまったものや別の場所へ移動したものもありますが、佐野の記録からかつては大切にされていたことがうかがえます。



II-8-7 「行者さま」  
撮影者 佐野一彦 1962(昭和 37) 年撮影 館蔵



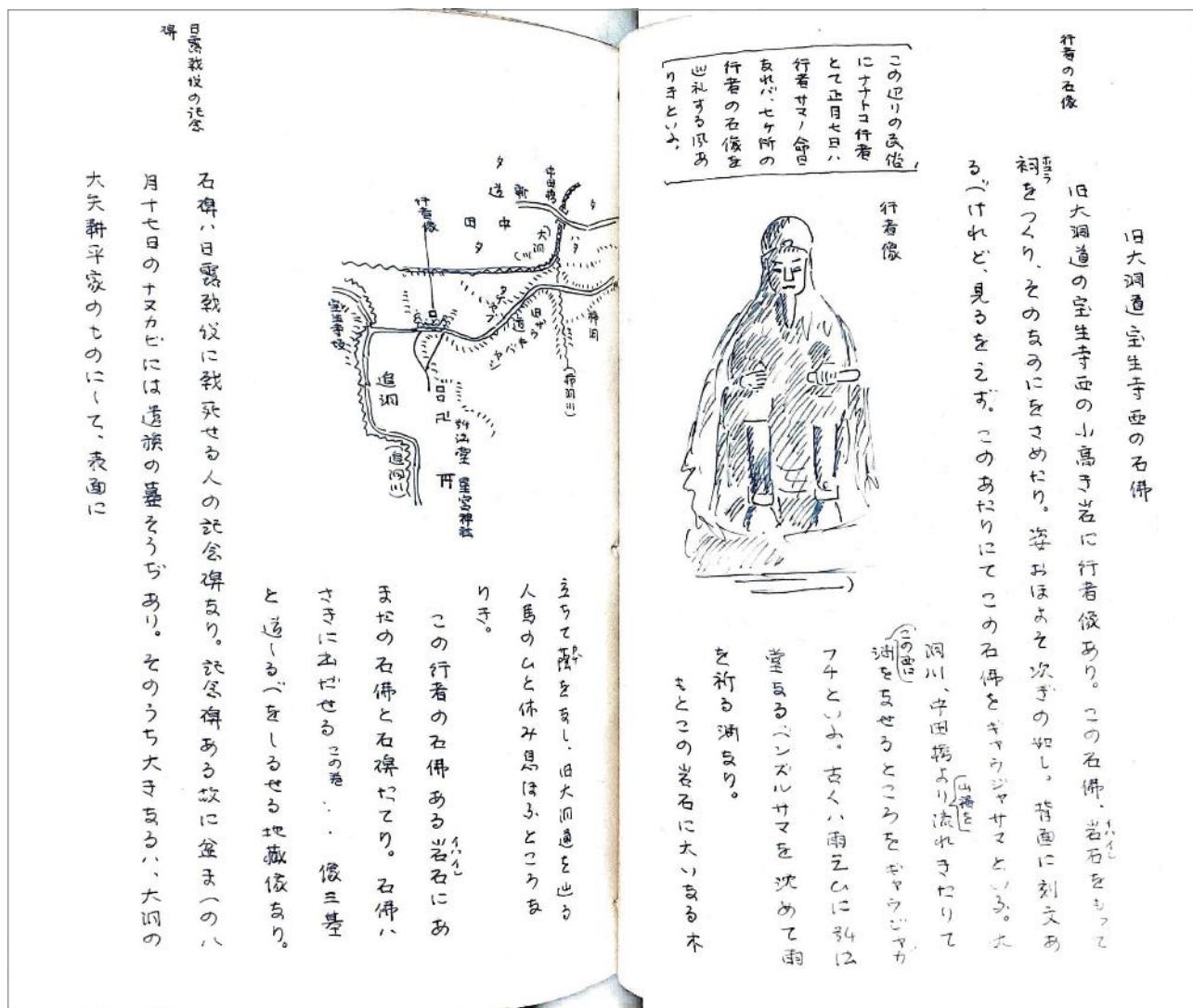
現在の様子  
2025(令和 7) 年撮影



II-8-8 旧大洞街道宝生寺西の石仏  
撮影者 佐野一彦 1966(昭和 41) 年撮影 館蔵

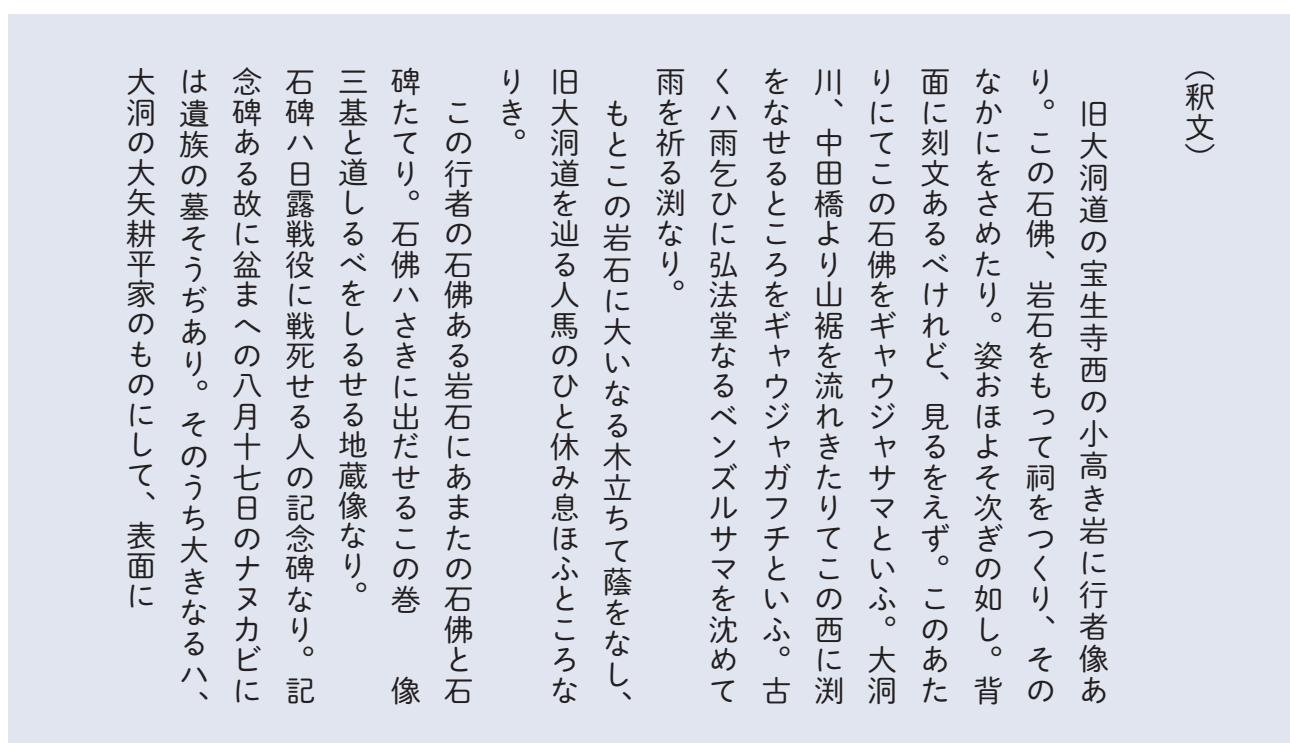


現在の様子  
2025(令和 7) 年撮影



II-8-6 「旧大洞道宝生寺西の石佛」

佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」1974(昭和49)年 館蔵



辻と石地蔵

別所という地区にある道しるべ石の記録から、石地蔵に「右かぶち、左つほ」という道の情報が刻まれていたことがわかります。ここには他に2基の石仏があり、9月1日には地蔵祭が行われていたそうです。その様子は佐野が撮影した写真で見ることができます。辻は一般的に異界との境界とみなされて石仏などが置かれることも多く、信仰の場でもありました。佐野の記録から、地域の人びとの交流の舞台としての辻の姿を垣間見ることができます。

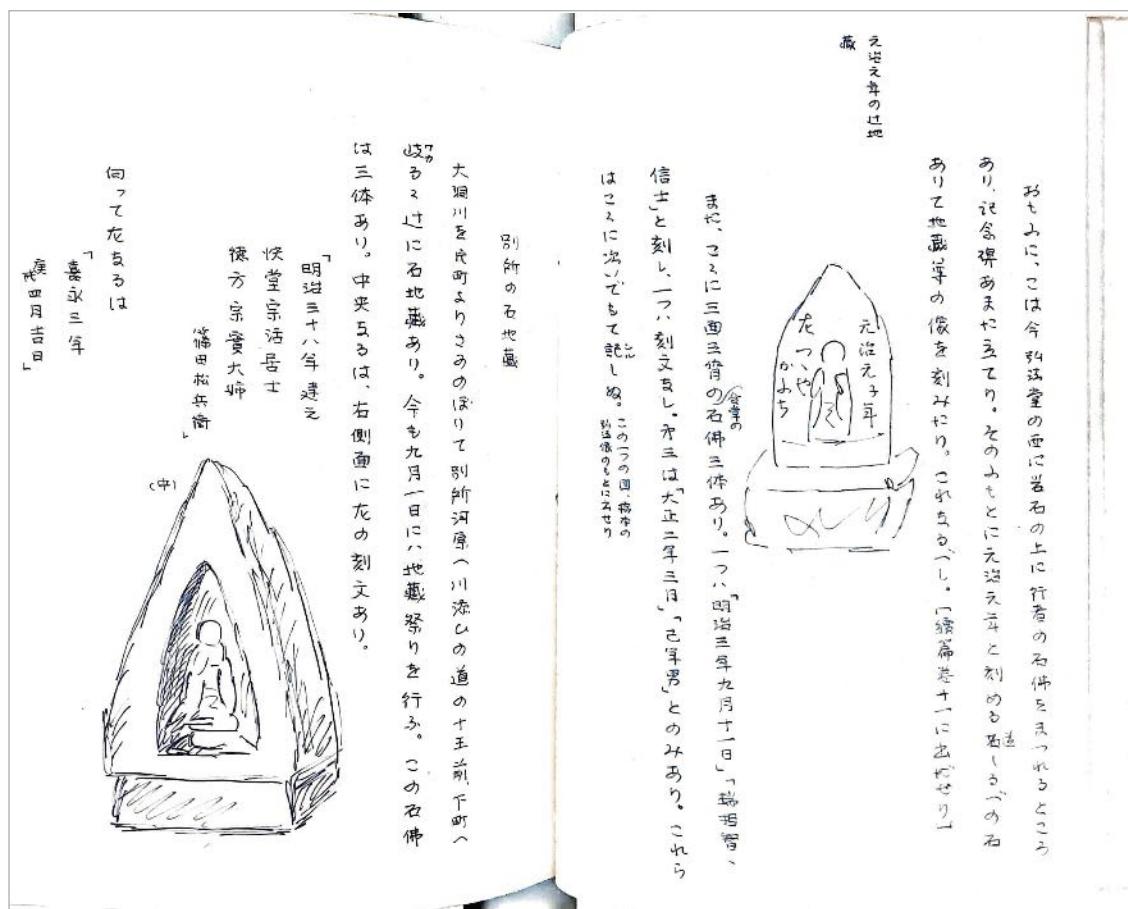


II - 8 - 13 地蔵祭り

撮影者 佐野一彦 1963(昭和 38) 年撮影 館蔵

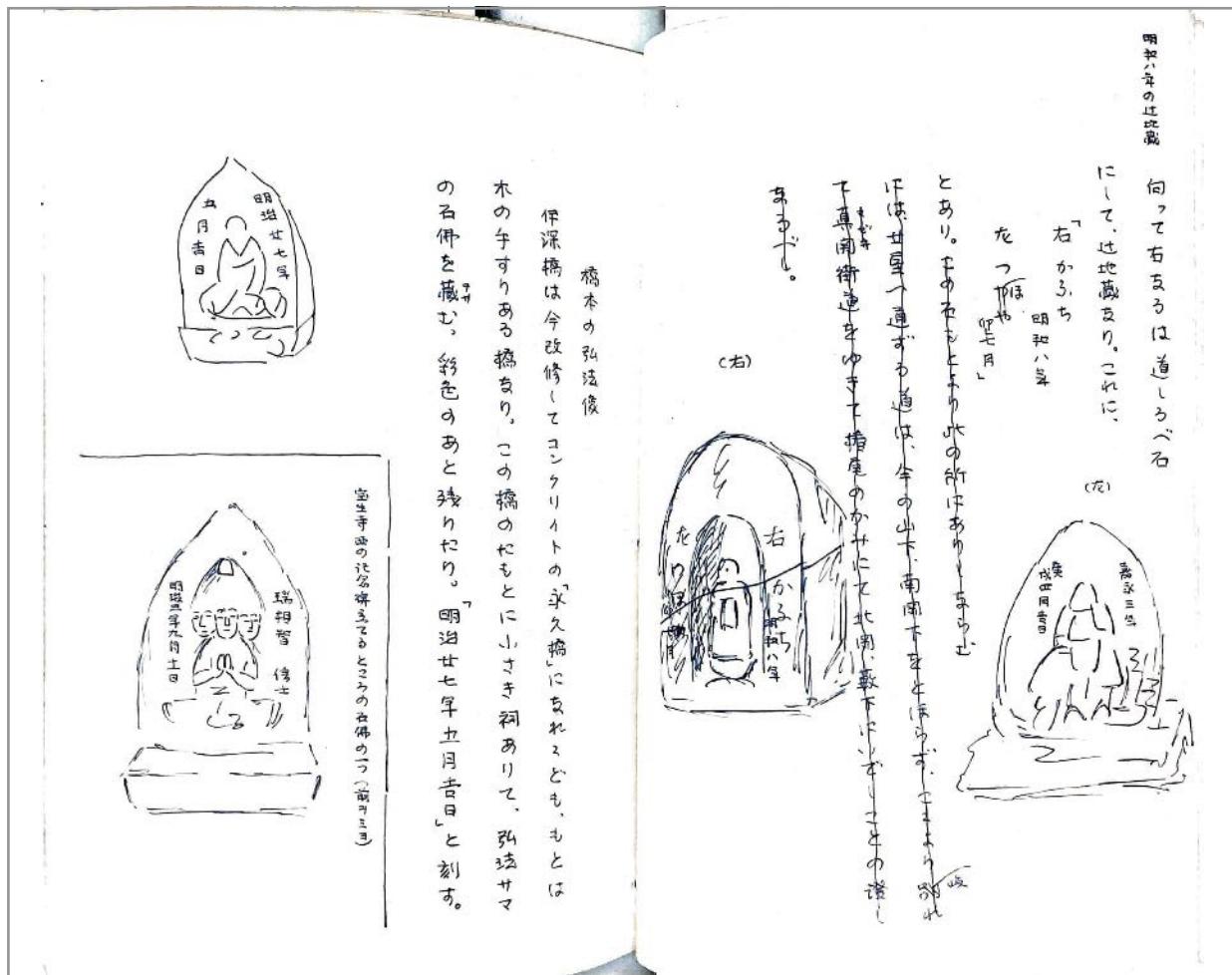


現在の様子  
2025(令和7)年撮影



## II-8-12 「別所の石地蔵」

佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」 1974(昭和49)年 館蔵



II-8-12 「別所の石地蔵」

佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」1974(昭和49)年 館蔵

(釈文)

大洞川を片町よりさかのぼりて別所河原へ川添ひの道の十王前、下町へ岐るゝ辻に石地蔵あり。今も九月一日にハ地蔵祭りを行ふ。この石佛は三体あり。中央なるは、右側面に左の刻文あり。

「明治三十八年建之」

快堂宗活居士

徳方宗實大姉

篠田松兵衛」

向つて左なるは

「嘉永三年 庚戌 四月吉日」

向かつて右なるは道しるべ石にして辻地蔵なり。これに、

「右 かふち

明和八年  
左 つほ  
卯七月」

とあり。上の右もとより此の所にありしなむには、世屋へ通ずる道は、今の山下、南岡下をとほらばず、すより岐別れて東関街道をゆきて、椿尾のかみにて北岡、數下にいだしてとの證なるべし。

## ブビロメ

戦後、市内には道幅が狭くて自動車のすれ違いや通行ができない道路もありましたが、交通量の増加にともない整備が行われました。佐野は、こうした道の変化にも目を配り、伊深地区で行われた道路のつけかえや「ブビロメ」について記録しています。「ブビロメ」とはこの辺りの方言で、道路の幅を広げることを言います。1964(昭和39)年頃、伊深地区では大洞行きのバスの通行のためにブビロメを行っています。かつて、道路は現代のように舗装されておらず、道路の補修や管理は地域で行われていました。伊深のブビロメもこうした地域住民の共同奉仕作業のひとつと考えられます。佐野の書いた「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇巻拾」にはブビロメした場所を示す地図のほか、土を入れ、杭を打つといった工事の手法についても記されています。同時期、佐野がブビロメの様子を撮影した写真と合わせて見ることで、当時の様子をより詳しく知ることができます。



II-8-23 「上切バス道のブビロメ」  
撮影者 佐野一彦 1964(昭和39)年撮影 館蔵



現在の様子  
2025(令和7)年撮影

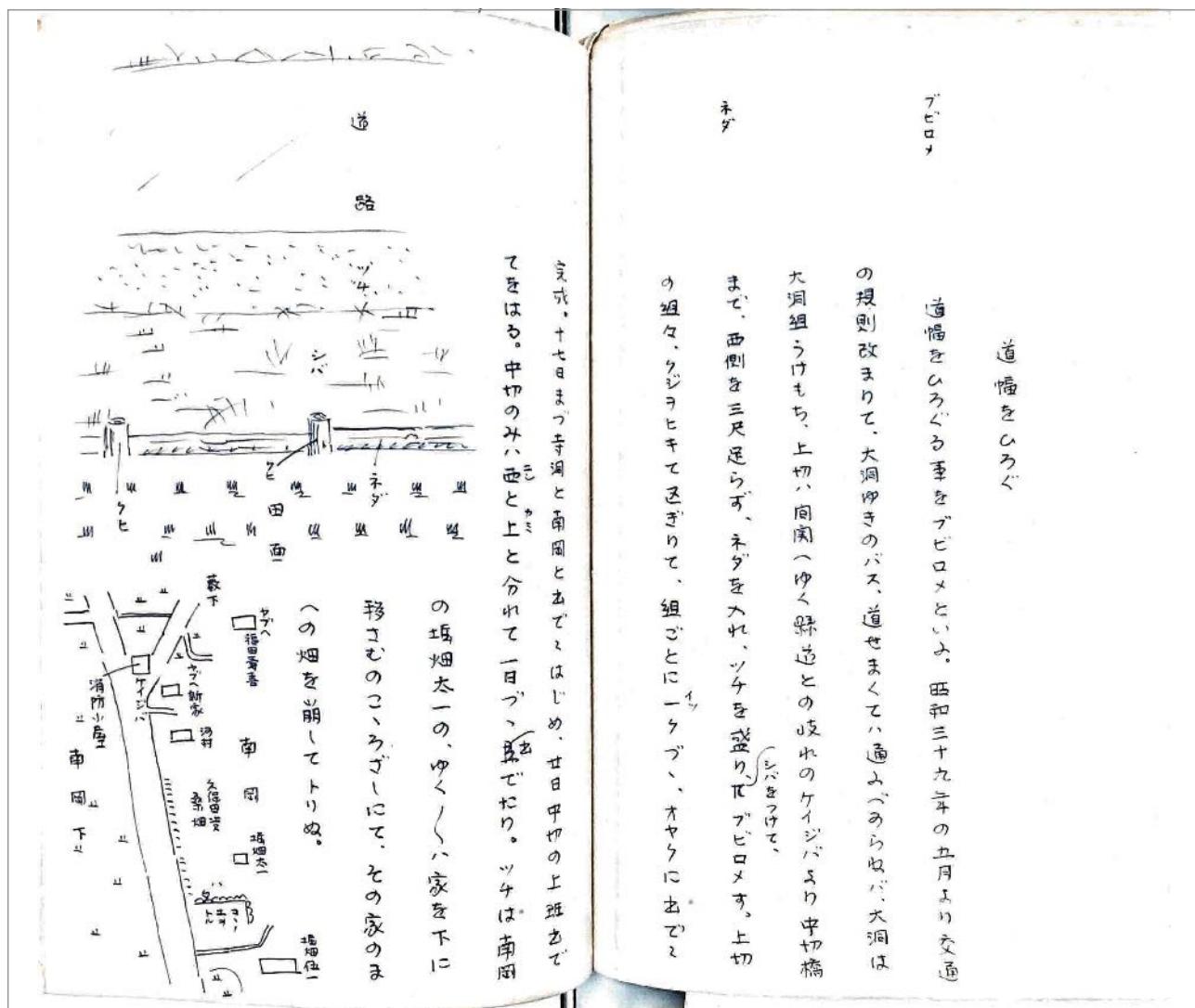


II-8-16  
「大正中期における伊深の家並図」  
昭和50～60年代ごろ 館蔵

## 大正中期の伊深

模造紙に書かれ、ベニヤ板に貼り付けられたこの地図は、伊深の人びとの手によってつくられた手書きの地図です。作成は昭和50～60年代ごろと考えられ、大正中期ごろの伊深村の様子を記憶や調査をたよりに地図に落とし込んだものと思われます。

地図には家や道、井戸、石造物、寺社などが細かく書きこまれ、ていねいに色付けされています。また、大正以降に開通する道や寺社、伝説などの情報も書かれており、伊深の人びとが自分たちの暮らす地域をどのようにとらえていたのかを知ることができます。



II-8-22 「道幅をひろぐ」

佐野一彦「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 巻拾」 1963(昭和 38)～1965(昭和 40)年 館蔵

(釈文)

道幅をひろぐる事をブビロメといふ。昭和三十九年の五月より交通の規則改まりて、大洞ゆきのバス、道せまくハ通ふべからねバ、大洞は大洞組うけもち、上切ハ間関へゆく縣道との岐れのケイジバより中切橋まで、西側を三尺足らず、ネダを入れ、ツチを盛り、シバをつけ、ブビロメす。上切の組々、クジヲヒキて区ぎりて、組ごとに一クづゝ、オヤクに出でて完成。十七日まづ寺洞と南岡と出でてはじめ、廿日中切の上班出でてをはる。中切のみハ西と上と分れて一日づゝ出でたり。ツチは南岡の堀畠太一の、ゆく／＼ハ家を下に移さむのこゝろざしにて、その家のまへの畠を崩してトリぬ。

### III 活かされている「みのかも地域文化資源」 —楽しみ・広がり・可能性—

文化財を取り巻く環境には、様々な課題があるものの、身近な「みのかも地域文化資源」と出会い、楽しみや関心をもった市民は、自由な形で関わりをもっています。その活動が、他者や地域を刺激し、互いに触発し合うことで、広がりや深まりを持つようになっていくことが期待されます。



#### III - 1 「みのかも地域文化資源」を活かす — 学校教育 — 展示品

- 「9. 28 あの日を忘れない」
- 「シゴハチくんがやってきた」
- 「はちやのたからもの」
- 「あまちのさんぽ」
- 「えげんさん」
- 「いのちをつなぐ」
- 「みのかもえほんのわ」
- 「語り継いでいきたい山之上小の秘密」
- 「夕雲の城」
- 「津田左右吉物語」
- 「伊深温泉の歴史」
- 「伊深の食文化」

ほか



### III - 2 「みのかも地域文化資源」を活かす一個人・団体－展示品

- ・「太田宿の宝物」
  - ・「山椿通信」
  - ・「津田左右吉」
  - ・「キツネとタヌキが牧野と下米田を救った」
  - ・「下米田地区 方言考」
  - ・「あしたとあしあと」
  - ・「わがふるさと 清水」
  - ・「古井神社祭礼」
  - ・「なぞりがき」
  - ・「伊深の百姓しごと」
  - ・「かもの町 お寺ものがたり」
  - ・「米田白山 遊歩道 MAP」
- ほか

## IV 「みのかも地域文化資源」への思い

美濃加茂市文化財保存活用地域計画で目指す将来像に向かうためには、このまちで大切に守られ息づいてきた、美濃加茂市らしさを表す特有のものとして、個人、地域の想いをつなげ、みんなで守り、活かし、後世に継承することが重要です。

この達成のために、地域全体の「エコミュージアム」の核として美濃加茂市民ミュージアムで行っている博物館活動や機能が、大きな役割を果たします。市民ミュージアムを拠点としながら、下記の6つの方向性のもと、「みのかも地域文化資源」を丁寧に調べ、市民へ伝え、市民と共有する活動を行うことで、将来像の達成へつなげていきます。

[将来像達成のための6つの方向性]

### 方向性1 「みのかも地域文化資源」を明らかにする

「みのかも地域文化資源」を丁寧に調べ、地域の想いや暮らしを通して大切に守られ、息づいてきた「美濃加茂らしさ」を表すものとして明らかにし、その成果を積み重ねます。

### 方向性2 「みのかも地域文化資源」を守る

大切にされてきた「みのかも地域文化資源」と、一人ひとりの、そして地域の「みのかも地域文化資源」への想いを将来につなげていくために、適切に守ります。

### 方向性3 「みのかも地域文化資源」を共有する

「みのかも地域文化資源」がまちのさまざまな場所で活かされ、美濃加茂市を更に“深み”のあるまちにするために、暮らしの中で育まれてきた地域の魅力を多くの人に共有します。

### 方向性4 「みのかも地域文化資源」を活かす

美濃加茂市が一人ひとりにとって居心地がよく、誇りと感じる“深み”のあるまちとなるために、「みのかも地域文化資源」を社会的課題の解決につなげながら、まちのさまざまな場面で活かします。

### 方向性5 「みのかも地域文化資源」をみんなで支える

自分たちの暮らす美濃加茂市に“深み”を持たせる「みのかも地域文化資源」を守り、活かす人の輪を広げ、市民一人ひとりの想いをつなげながら、みんなで支えます。

### 方向性6 「みのかも地域文化資源」をつなぐ

「みのかも地域文化資源」をさらに磨き、まちに地域の想いが息づくものとして大切に後世に継承するために市民ミュージアムを核としながら、「ひと暮らし」「ひとと地域」をつなげます。

『美濃加茂市文化財保存活用地域計画 令和6年度～令和15年度』(美濃加茂市、2025(令和7)年)、75頁より抜粋

## 想いがつながり、深まりつづけるまち

美濃加茂市の積み重ねを象徴する「みのかも地域文化資源」は、これまででも美濃加茂市で生きる一人ひとりの暮らしを通して、大切に守られ、まちに息づいてきました。

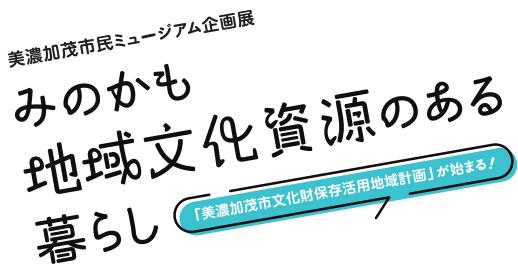
一人ひとりの想いにより、それら「みのかも地域文化資源」が明らかにされ、共有されていくことで、「みのかも地域文化資源」を活かしたまちづくりが進み、自分たちの暮らしている美濃加茂市が“深み”的あるまちとなり、その“深み”が増すほど、より居心地が良く、誇りと感じるまちになります。

本計画では、一人ひとり、そして地域の想いが市民ミュージアムを拠点につながり、さらに磨かれ息づくことで、「みのかも地域文化資源」がより多くの人に共有され、将来に継承され続ける姿を目指します。

『美濃加茂市文化財保存活用地域計画 令和6年度～令和15年度』(美濃加茂市、2025(令和7)年)、74頁より抜粋

### みのかも地域文化資源のある暮らしー「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が始まるー 展示室の様子





- 2025年4月19日（土）～5月25日（日）
- 会場：みのかも文化の森 / 美濃加茂市民ミュージアム  
企画展示室・美術工芸展示室

### 展示一覧

No	資料名	材質など	大きさ (cm)	年	所蔵先	備考	注記
----	-----	------	----------	---	-----	----	----

#### I 美濃加茂市文化財保存活用地域計画とは

1	集められた「みのかも地域文化資源」	紙、写真			館蔵	9点一括。「指定文化財写真(分野別)」、歴史資料・写真(林亮三、小栗恵八作成)	
2	明らかになった「みのかも地域文化資源」	図書			館蔵	市内8地区、21点一括。『なつかしの古里太田の巻』ほか	
3	全国の『文化財保存活用地域計画』	紙			館蔵	国リーフレット「美濃加茂市」「本庄市」「富士市」「岐阜市」「美濃市」	

#### II 身近にある、「みのかも地域文化資源」—いろいろな視点や切り口から—

##### II - 1 市内の校歌を読み解く

1	太田小学校 創立150周年記念クリアファイル	プラスチック	31.0 × 22.0	2023(令和5)年	館蔵		
2	古井小学校 創立130周年記念下敷き	プラスチック	21.0 × 29.5	2003(平成15)年	個人蔵		
3	山手小学校 創立40周年記念下敷き	プラスチック	21.0 × 29.5	2014(平成26)年	個人蔵		
4	『みのかも市報』第113号(複製)	紙	25.6 × 18.3	1968(昭和43)年11月1日	館蔵		複製
5	『山手の子』第2号	図書	15.2 × 21.2	1977(昭和52)年2月1日	館蔵	山手小学校文集委員会編	
6	官製はがき	紙	14.8 × 10.0	不明	館蔵		
7	山之上小学校PTA会報(複製)	紙	29.7 × 21.0	1991(平成3)年	館蔵	原本: 山之上小学校蔵	複製
8	『堀部校長 その日その時』	図書	21.2 × 15.0	1983(昭和58)年3月	館蔵		
9	手ぬぐい	布	35.3 × 88.4	1987(昭和62)年3月	館蔵	山之上小学校新築記念事業委員会編	
10	『学校日誌』	冊子	22.5 × 16.0	1947(昭和22)年度	個人蔵	「加茂郡山之上小学校」作成	
11	『わかさ』第8号	冊子	22.0 × 15.4	1954(昭和29)年度	館蔵	山之上中学校生徒会編	
12	『加農七十周年記念誌』	図書	21.3 × 15.0	1983(昭和58)年	館蔵		

##### II - 2 「鯉つかめ」と美濃加茂伝承料理の会

1	『おばあちゃんちのおかってNo.1』	冊子	21.0 × 14.8	2002(平成14)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会	
2	『おばあちゃんちのおかってNo.2』	冊子	21.0 × 14.8	2003(平成15)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会	
3	『おばあちゃんちのおかってNo.3』	冊子	21.0 × 14.8	2006(平成18)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会	
4	『おばあちゃんちのおかってNo.4』	冊子	21.0 × 14.8	2019(令和元)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会	
5	『おばあちゃんちのおかって〔番外編〕漬物特集』	冊子	21.0 × 14.8	2013(平成25)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会	

6	「四季を食べる講座 鯉つかめ」冊子	冊子	30.7 × 22.2	2016(平成 28)年	館蔵	美濃加茂伝承料理の会	
7	蚕のさなぎ		2.3 × 1.0 × 0.8		館蔵		
8	コモ	ワラ	89 × 59.5		館蔵		

### II - 3 のりづきとしおが描く地域の風景

1	のりづきとしお《伊深町 美濃加茂》	黒色鉛筆、透明水彩、紙	21.5 × 26.0	2005(平成 17)年 12月 25日	個人蔵		
2	のりづきとしお 《ふれ愛バス金谷 山之上町》	ボールペン、透明水彩、紙	18.5 × 13.0	2012(平成 24)年 12月 21日	個人蔵		
3	のりづきとしお 《山之上町／美濃加茂市》	黒色鉛筆、透明水彩、紙	21.5 × 27.0	2019(令和元)年 7月 6日	個人蔵		
4	のりづきとしお 《金谷地区／山之上 みのかも》	黒色鉛筆、透明水彩、紙	73.0 × 104.0	2017(平成 29)年 11月 18日	個人蔵		

### II - 4 ライン焼／蘇峠焼

1	加藤友平 蘇峠焼 菓子鉢	陶器	高 9.0 × 径 14.0	不明	館蔵	銘印 友平	
2	ライン焼 湯呑	陶器	高 11.5 × 径 7.5	不明	館蔵	銘印 友平	
3	ライン焼 鉢	陶器	高 11.0 × 径 17.0	不明	館蔵	銘印 友平	
4	ライン焼 徳利	陶器	高 12.0 × 径 6.5	不明	館蔵	銘印 ライン	
5	ライン焼 鉢	陶器	高 7.5 × 径 14.5	不明	館蔵	銘印 ライン焼	
6	ライン焼 湯呑	陶器	高 9.0 × 径 8.5	不明	館蔵	銘印 なし	
7	ライン焼 拳骨花瓶	陶器	高 20.0 × 径 17.0	不明	館蔵	銘印 なし	

### II - 5 このあたりは植物分布の「交差点」

1	ヤブツバキ	さく葉標本	A3用紙 (42.0 × 29.7)	2000(平成 12)年 4月 1日採集	館蔵		
2	シキミ	さく葉標本	A3用紙 (42.0 × 29.7)	2000(平成 12)年 4月 1日採集	館蔵		
3	ソヨゴ	さく葉標本	A3用紙 (42.0 × 29.7)	1999(平成 11)年 11月 14日採集	館蔵		
4	オオタチツボスミレ	さく葉標本	A3用紙 (42.0 × 29.7)	2000(平成 12)年 4月 21日採集	館蔵		
5	ショウジョウバカマ	さく葉標本	A3用紙 (42.0 × 29.7)	2000(平成 12)年 4月 1日採集	館蔵		
6	モチツツジ	さく葉標本	A3用紙 (42.0 × 29.7)	2000(平成 12)年 5月 14日採集	館蔵		
7	マルバノキ	さく葉標本	A3用紙 (42.0 × 29.7)	2002(平成 14)年 5月 12日採集	館蔵		
8	ササユリ	さく葉標本	A3用紙 (42.0 × 29.7)	1999(平成 11)年 5月 31日採集	館蔵		
9	ミツバツツジ	さく葉標本	A3用紙 (42.0 × 29.7)	1999(平成 11)年 11月 14日採集	館蔵		
10	ヤマユリ	さく葉標本	A3用紙 (42.0 × 29.7)	2020(令和 2)年 8月 1日採集	館蔵		
11	写真 (ヤブツバキ)	写真	A5用紙 (14.8 × 21.0)	撮影年月日不明	館蔵	撮影者：安藤志郎 撮影場所：不明	
12	写真 (シキミ)	写真	A5用紙 (14.8 × 21.0)	4月 8日撮影 (年不明)	館蔵	撮影者：安藤志郎 撮影場所：不明	

13	写真（ソヨゴ）	写真	A5用紙（14.8×21.0）	2017(平成29)年12月28日撮影	館蔵	撮影者：西尾円 撮影場所：美濃加茂市蜂屋町	
14	写真（オオタチツボスミレ）	写真	A5用紙（14.8×21.0）	2001(平成13)年4月15日撮影	館蔵	撮影者：安藤志郎 撮影場所：美濃加茂市三和町	
15	写真（オオタチツボスミレ）拡大	写真		2001(平成13)年4月22日撮影	館蔵	撮影者：安藤志郎 撮影場所：美濃加茂市三和町	
16	写真（ショウジョウバカマ）	写真	A5用紙（14.8×21.0）	2020(令和2)年3月21日撮影	館蔵	撮影者：西尾円 撮影場所：美濃加茂市伊深町	
17	写真（モチツツジ）	写真	A5用紙（14.8×21.0）	2000(平成12)年5月21日撮影	館蔵	撮影者：安藤志郎 撮影場所：不明	
18	写真（マルバノキ）	写真	A5用紙（14.8×21.0）	2016(平成28)年5月15日撮影	館蔵	撮影者：西尾円 撮影場所：加茂郡七宗町	
19	写真（ササユリ）	写真	A5用紙（14.8×21.0）	2024(令和6)年5月29日撮影	館蔵	撮影者：西尾円 撮影場所：美濃加茂市蜂屋町	
20	写真（ミツバツツジ）	写真	A5用紙（14.8×21.0）	2001(平成13)年4月13日撮影	館蔵	撮影者：安藤志郎 撮影場所：三和町御殿山	
21	写真（ヤマユリ）	写真	A5用紙（14.8×21.0）	撮影年月日不明	館蔵	撮影者：安藤志郎 撮影場所：美濃加茂市山之上町	
一	美濃加茂市航空写真		235.0×235.0	2023(令和5)年8月撮影	館蔵	中日本航空株式会社撮影	

## II - 6 一人ひとりが見つけた「出土品」

1	夏休み社会科作品「拾えたよ！土器」	紙箱（土器片）、地図、表			館蔵	小学校4・6年生児童による。 為岡遺跡を中心とした研究	
2	石器類（日比野修一コレクション）	石		縄文、弥生時代	館蔵	亀淵遺跡（古井地区）出土か？	
3	石器類（安藤正義コレクション）	石		縄文、弥生時代	館蔵	『紀要12集』に記載	

## II - 7 これまでにも紹介してきた「みのかも地域文化資源」

1	まちのいいもの よいところ一山之上一展ポスター	紙・パネル	51.5×72.8		館蔵		
2	バス停からの小さな旅 掲載リスト						
3	バス停からの小さな旅 紹介パネル						
4	MINOKAMO STORY 紹介パネル						

## II - 8 佐野一彦が見た「みのかも地域文化資源」

1	佐野一彦	スライド写真		1964(昭和39)年12月19日	館蔵		
2	「美濃伊深村の民俗 正編」		25.8×18.5	1948(昭和23)年	館蔵		
3	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」		26.2×18.5	1974(昭和49)年	館蔵		
4	佐野が使用したスライド映写機		7.5×14.0×11.5	年代不詳	館蔵		
5	佐野が使用したカメラ		5.0×11.5×6.5	年代不詳	館蔵		
6	「旧大洞道宝生寺西の石佛」	複製原稿		1974(昭和49)年	館蔵	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」	複製
7	「行者さま」	スライド写真		1962(昭和37)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
8	旧大洞街道宝生寺西の石仏	スライド写真		1966(昭和41)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
9	「眞関の地蔵」	複製原稿		年代不詳	館蔵	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷式拾五」	複製

10	「関也の道しるべ石」	複製原稿		1974(昭和49)年	館蔵	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」	複製
11	関也の掲示場	スライド写真		1963(昭和38)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
12	「別所の石地蔵」	複製原稿		1974(昭和49)年	館蔵	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」	複製
13	地蔵祭り	スライド写真		1963(昭和38)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
14	「河原田の古き道」	複製原稿		1972(昭和47)年	館蔵	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷拾参」	複製
15	まるやぶ	スライド写真		1964(昭和39)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
16	「大正中期における伊深の家並図」		174.5 × 91.5	1975(昭和50)～1985(昭和60)年	館蔵		
17	「正眼寺大門の石碑 昭和四十九年十二月調べ」	複製原稿		1974(昭和49)年	館蔵	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷十九」	複製
18	「正眼寺大門記念碑」	スライド写真		1966(昭和41)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
19	「庚申堂の鐘」	複製原稿		1981(昭和56)年以前	館蔵	「伊深村の民俗と歴史 二十九」	複製
20	庚申堂	スライド写真		1963(昭和38)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
21	チコンチコン	スライド写真		1963(昭和38)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
22	「道幅をひろぐ」	複製原稿		1963(昭和38)～1965(昭和40)年	館蔵	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷拾」	複製
23	「上切バス道のブビロメ」	スライド写真		1964(昭和39)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
24	「岩井洞より廿屋へこゆる道」	複製原稿		1963(昭和38)～1965(昭和40)年	館蔵	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷拾」	複製
25	「岩井洞より廿屋を望む」	スライド写真		1964(昭和39)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
26	「龍安寺」	複製原稿		年代不詳	館蔵	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷ノ二十四」	複製
27	「寺洞口の道のつけかへ」	複製原稿		年代不詳	館蔵	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 卷式拾五」	複製
28	ドンド	スライド写真		1963(昭和38)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
29	寺洞口のブビロメ	スライド写真		1964(昭和39)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
30	高倉神社の石灯籠と寺標	複製原稿		年代不詳	館蔵	「美濃伊深村の民俗と歴史 続篇 式拾七」	複製
31	高倉神社	スライド写真		1963(昭和38)年	館蔵	撮影者：佐野一彦	
32	高倉里から送られた荷札	木	22.0 × 1.8		館蔵	原資料は奈良国立文化財研究所	複製
33	佐野一彦撮影 写真スライドショー						

### III 活かされている「みのかも地域文化資源」－楽しみ・広がり・可能性－

1	「みのかも地域文化資源」を活かす（つなぐ・みんなで支える）- 学校教育 -	図書、紙、パンフレット			館蔵	市FROM- 0歳プラン絵本、『津田左右吉物語』等	
2	「みのかも地域文化資源」を活かす（つなぐ・みんなで支える）- 個人・団体 -	紙、パンフレット			館蔵	市第六次総合計画、『市観光ガイド教本』等	

### IV 「みのかも地域文化資源」への思い

—	「みのかも地域資源」に対する市民意識と協議会でのコメント						
---	------------------------------	--	--	--	--	--	--

※総展示点数 99 点

## 凡例

1. 本書は、2025（令和 7）年 4 月 19 日（土）～5 月 25 日（日）にかけて開催した展覧会「みのかも地域文化資源のある暮らしー「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が始まるー」で展示したパネル原稿を再編集して作成しました。
2. パネル原稿については、美濃加茂市民ミュージアムの学芸員がそれぞれ執筆しました。
3. 本書には、展示パネルおよび展示資料の一部を掲載しています。展示の順序とは必ずしも一致するものではありません。
4. 展覧会や本書の作成にあたり、多くの機関ならびに関係者の方々にご指導・ご協力いただきました。厚く御礼申し上げます。

## みのかも地域文化資源のある暮らし 「美濃加茂市文化財保存活用地域計画」が始まる！

2025（令和 7）年 6 月 30 日発行

編集・発行 美濃加茂市民ミュージアム  
(美濃加茂市市民協働部文化振興課)

〒 505-0004 岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1  
電話：0574-28-1110 FAX：0574-28-1104  
<https://www.forest.minokamo.gifu.jp>

